大正八年五月二十日發行

婦人衛生雜誌

第三百四十七號

婦人衛生雜誌

第三百四十七號目次

謹告

前月本會總會及懇親會擧行致すべき旨御通知申上候處　總裁東伏見宮妃殿下御緣戚に御取込みあり尋で御不幸あらせられ候に付き今回の總會は取止め秋季に延期致すことゝ相成候間此段御了承被下度候也

大正八年五月

私立大日本婦人衛生會

私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをして足れりとするにはあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一年を送らんと皆ともに希はざるはあらじされども其身健康にあらざれは此生活を得んといと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〳〵衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして皆吾等婦人のもつぱら掌るべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相尋て起り婦人社會も漸く其面目を改めんとするは眞に喜ばしきことなりされども夫の衛生の事に至りては更に注意を惹かざるもの〻如くまことに口惜しきことなり因りて頃日同志婦人集ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月一回集會を開き學識經驗ある人々に衛生上諸般の講義演説談話を乞ひ互に相研究し尚之を筆記して册子を編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに盡すあらんとす茲に本會旨趣の梗槪を敍べて廣く江湖の諸愛姉に告げ其贊成を仰ふぐことしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則摘要

（明治卅二年十二月改正）

第一條　目的　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を増進するにあり●第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く●第三條　本會會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得●第四條　入會の節には姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員章を交付す（交付手續は卷末に詳なり）入會後轉居等あるときは速に事務所に報知せらるべし●第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三拾錢以上、通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むる者とす●第六條　男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會費は會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを望みたる節は役員の協議に依り無會費とすることあるべし●第七條　會員は本會に於て毎月發刊する雜誌を無料にて受ることを得●第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は本親戚知友より通知せらるべし但既納の會費は總て返戻せず●第九條　本會に推戴員を置き其中より總裁一名を奉じ皇族の妃殿下に願出るもの、とす●第十條　本會に左の役員を置く會長一名、副會長一名、幹事七名、評議員三十名、書記若干名●第十一條　會長副會長幹事評議員は滿年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選擧し書記は幹事の推薦に依り會長之を命ず但書記は都合に由り會員外の婦人若くは男子に託することあるべし●第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命を受け諸記錄雜務を掌る幹事の分課を設け第一會計、第二編輯出版、第三庶務とす●第十三條　臨時指名委員の件●第十四條　會長副會長幹事評議員の任期は二ヶ年とす滿期再選することを得若し任期中缺員を生ずるときは次點者を以て補缺す●第十五條　會長副會長幹事評議員は無給とす書記には相當の報酬を給す●第十六條　集會は例會總會及評議員會とす集會は八九月を除くの外每月一回とし總會は三月に之を開く若し急要の事あるときは臨時に總會を開くことあるべし又春秋二回會員相互親睦の爲め團遊會を開くことあるべし●第十七條　每會學識經驗ある人々に衛生上の講義演說談話を囑托し會員をして隨意聽講せしむるものとす●第十八條　會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會々場に誘致し講義演說等を傍聽せしむることを得（但衣服は總て質素たるべき事）●第十九條　演說講義等は男子の傍聽を禁ず●第二十條　規則の改正其他重要の件議定のこと●第廿一條　每年三月總會に於て會計の收支決算並に庶務の槪要會員の增減等を報告すべし●第廿二條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす●第廿三條　會計の收支は總て會計擔任の幹事檢印を要するものとす●第廿四條　會計は一ヶ年每に決算し翌年三月總會に報告すべし

支會●第廿五條　地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得●第廿六條　本會々員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載して申出べし爾後員數增減あるときは其姓名を支會より本會事務所に揭告すべし本會會員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付することを止め支會の規定に依るものとす●第廿七條　支會には支會限りの會員を置くことを得●第廿八條　本會の雜誌は支會に回送すべきを以て其費用を支會より本會に送付すべし支會限りの會員にして雜誌を請求する者に就きても亦同じ●第廿九條　支會は集會の都度其狀況を本會に報告すべし●雜件

第三十條　本會は每月一回雜誌を發刊し之を會員に配附すべし●第卅一條　會員又は會員外の者にして金圓若くは書籍物品等を本會に寄贈する者ある時は本會々長の名を以て謝狀を贈り寄贈者の姓名及品目を簿册に登錄し尙本會雜誌を以て報告すべし●第卅二條　會費金は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送費として別に返信料を添へらるべし（郵券送一割增）●第卅三條　會費は東京府下に限り每月領收人を差出すべし地方會員は總て前金として振替に て口座番號東京一○六○○番本會事務所宛に振出しあるべし●第卅四條　會員中若し本會の障碍となるべき所爲ある者又は屢〻會費を督促するも納付せざる者あるときは會長評議員會の決議を經て除名し若しくは廣告することあるべし

東京市麴町區富士見町二丁目卅二番地　私立大日本婦人衛生會

婦人衛生雜誌第三百四十七號
(大正八年五月二十日發行)

講演

近代婦人頭腦の進歩

醫學士　杉田直樹

今日では御婦人方に關する各方面いろ〳〵の問題が研究されて居りまするが、私は其一方面と致しまして御婦人方の能力、詰り頭腦の力と云ふやうな所から說起して婦人に適當な職業の事柄及其社會的地位としての理想と云ふやうなことに就て醫學の立場から申し上げて見やうと思ふのであります。

御見受け致しましたところ前面にはお若い方々が澤山おいでになりますし又此方には御年寄り――お年寄りと申しては甚だ失禮でございますが、まあ私よりも年長の方々が大分お見えになります。で婦人問題など丶申しますと大變耳新らしい事を申し上げますやうですが、つまり今日のいろ〳〵の婦人問題は、比較的若い(と申すと少し語弊がございますが)世間の事を能く呑込んだお年を取つた方々と、まだお若い方々との間にいろ〳〵理解を異にする所がある爲めに問題が起つて來るのであります。殊に本日(三月一日)は日比谷公園に於て普通選擧の示威運動と云ふやうな事を行ると云ふことが新聞に見えましたが、それに關聯して當今は婦人の參政權問題、婦人の選擧權問題などと云ふやうな事もぼつ〳〵聞えて居ります。是は日本に於てはまだ〳〵遠い問題でありませうが外國に於ては既に是が行はれて、盛に女權擴張などを說いたり、既に英米の一部では女の參政權を認めたのであります。又一方からは婦人の職業問題等に就ても盛に議論が鬪はされて居ると

云ふ有樣であります。我國へも最近には婦人職業問題、女權問題などが輸入されて參りまして、所謂新らしい女などゝ呼ばれてゐる急進的の考へを口にする輩が出て來ました。是等はつまり比較的年若い者は敎育の結果多少現代の科學の進步を知り又我國の社會制度も段々進步し變化し行くに連れて、維新當初に敎育された多少年を取つた方々とは事柄に對する理解が異なり、又生活上の安定の度も異なるために、自然に起つて參つたところの現象と思はれるのであります。

從前の本邦の婦人は社會的地位として男子に從屬的の者でありましたけれどもそれは決して婦人の美質特徵を認めないでたゞ奴隷的にさうして居つたのではなく、社會組織の便宜上から婦人が男子に從つて始めて一單位をなして居つたのであります。それが段々と時勢が進んで來て唯今では婦人自身も獨立をなし、或は少くとも男子に從屬せず、男子と同權に相提携して社會的の地位を得、又自分獨りで或種の職業を執つて行くだけの思考力判斷力があると云ふやうに言說されるやうになつて來たのであります。然るに我が日本國では婦人全體として敎育も低く自覺も淺く、いろ〳〵の點でまだ〳〵男子には及ばぬ所があるし、又婦人は獨立しては甚だ不都合な點もありまして、歐米外國の婦人の間に唱へられて居るやうな急進的な思想を本として、それを直ちに日本の社會にも移し及ぼし日本婦人の問題を解決しやうと云ふやうな所謂新らしい女と云ふ人達の運動もまだ少し早過ぎるかと思はれますのであります。

一體この新らしい女の思想と云ふやうな急進的な考へが外國の婦人の間には可なり廣く唱へられ且反響を呼んでをりまするが、之が本邦に傳はりましたのは一面に於て文學の玩賞が行亙つて外國の小說とか又は詩とか云ふやうな方面で盛んに婦人の向上とか女權の擴張とか云ふやうなことが唱へられて居りますから、それが若い方々の眼に映り、知らず識らず自然にそんな思想が頭腦に刻まれて來たゝめ、誘導

的にそろ〳〵自覺心が起つて來たのと又一面に於て社會全體の思想、又各人の生活上に於ても段々時代が違つて來たと云ふ點から今までの如く男子に從屬斗りしてゐずと女でも社會の一員となつて働かなければならぬと云ふやうな考へも起り又實際自活して行かねばならぬ境遇の人も出來て、それから婦人の職業問題と云ふやうな方面の論議も盛に鬪はされるやうになつたのであります。しかしまだ〳〵日本ではそれは婦人各個の自覺から發生したので無くて輸入思想に挑發されて動いたものと見る方がよろしからうと思はれるのであります。

昔から犬と猿、嫁と姑は仲が惡るい者の例にひかれるもので、本なぞを讀んで難かしい字があると「姑字」と申します。之は「よめにくい」といふことださうで、さう云ふ風に年寄りと若い者との間には理想の間隔があり、從つて意見の衝突が生じ易いのであります。兎角若い者は空想に流れ易く未來の事斗り考へて確乎りとした立場から蹈みしめずに、なんでも輕躁の擧動に出で易い。然るに壯年の者は自分の生活上の立場から現在の脚下を一歩々々に蹈みしめて行く、又ずつと老年になると自分の子が成人して、自分は既に隱居の身であつて、假令社會の表面に立つて活動する能力はあつても其必要が無いといふ滿足な位置に在る。さうすると若い者を見るとそれを昔の自分とひき比べ、自分が同じ年輩だつた若い時代のことを考へて、今の若い者と自分の若かつた時と其間二十年なり三十年なりの時代が變遷して居ると云ふことに氣付かない。どうも今の若い者は空想にばかり驅られて輕卒である浮き〳〵してゐると云ふやうなことを言ふ。社會の進運につれて若い者の思想は絶えず動いて行く。從つて昔の若かつた者と今の若い者とは思想が自然と異なつて來ると云ふことは已むを得ぬことであります。

併しながら日本の若い方々はまだ可なりよく年寄のいふ事に從順であるやうであります。是から段々時代の進むに從つて昔の封建時代の嫁姑の間柄のや

うな服從的の習慣も追々廢れて參るのでありませうが、私は日本には日本獨特の家族主義と云ふ美風はいつまでも亡びさせたくないと思ふ。由來此の長幼の序といふことは日本の氣風の美を發揮して行く眞に悦ばしい美德でありまして、殊に此嫁姑と云ふやうな關係は外國には見ないことであります。歐米では既に子供が一人前になつて他から嫁を貰ふやうな年配になりますと親から全然離れて、別居して仕舞つて生活上全く兩親の家庭と子供の家庭とは經濟を別個に致します。勿論親子はどこ迄も親子でありますが、大抵は互に獨立した家に住むと云ふことが習慣となつて居るから、自然日本の家庭のやうな家族制度とは根柢が全く違つて居るのであります。であるから日本に於て家族と稱するやうな親族相團結してお互に溫かい心持を持ち又其間に自然的義務を生ずるといふ風は外國に於てはございませぬことで、此美風は日本國の特有のものであります。だから家族、家庭に於ける婦人の地位は日本は全く獨得で之は日本國の國風により解決して行くべき問題であります。然るに近頃婦人問題などを論ずる論を拜見しますと往々輕卒にもこの日本固有の家族主義と云ふことに重を措かないで、唯々外國の婦人などの唱へる個人主義獨立主義などをそのまゝ受賣して婦人は個々別々に男子や長上を離れて獨立の地位に在るべき者だなぞと言ひ、外國の少數の婦人の急進的思想を鵜呑みにしてそのまゝ日本の社會に及ぼさむとするやうなことを見ますのは如何にも淺薄輕卒な考へでありまして、之は今後大に識者の熟考を要することであらうと思ひます。

現今では婦人雜誌などに女權擴張であるとか婦人の職業問題であるとか云ふやうな論が盛に載せられるやうであります。一體四五年前までは婦人子供を相手の雜誌は極めて少數であつたのが、現在は子供の雜誌だけでも東京附近だけで六十種、婦人專門の雜誌の如きも既に三十種以上に上つて居ると云ふことである。是等は一面に於ては婦人の常識が向上し

雜誌を見やうと云ふ知識慾及び能力が段々増して來たから自然斯う云ふ需要も生じたのであると言はれるかも知れぬが、實際此婦人專門の雜誌の記事が多くは甚だ淺薄な物であつて一般の婦人の爲めに却つて惡るい影響を及ぼすことさへあるのであります。何故惡るいかと云ふと婦人は元來被影響性に富んでゐるのに對して餘り精選されない輕卒な記事、殊に外國の人の論をそのまゝ丸呑みにしたやうな記事は、婦人の弱い意志を迷はすことが多く又之を輕々に信じて了ふと、國情の異なつた我國婦人にとつて誠に不都合な事が多いのであります。總てが皆惡るいと云ふ譯ではありませぬけれども日本の國柄の特色を能く理解しないで直に外國人の說などを何でもいゝやうに紹介すると云ふことは却つて無智な人を邪路に導くやうな結果になりはせぬかと思ふのであります。

さういふ論斗り聞いてゐる人にとつては外國婦人の生活法は誠に羨ましい程完全なものであつて如何にも幸福のやうに考へてゐます。卽ち外國婦人は日本の婦人よりも進步した生活法をして居ると云ふやうに考へてゐます。私は平和の時に獨逸國に暫らく留學して居つたのでありますが、例へば獨逸の中流所の婦人は中々世智辛い。立派に夫を有つた人であつても、主婦が家庭に在つて子女を敎養せなければならぬ義務を抛棄し、子女は他人に任せ又一家の事まで自分では何も構はず自分も亦夫と同じく會社に勤めるとか又は個人に傭はれたり敎師をしたりして獨立に活動をし自分だけの收入を得て居る者が多いのであります。つまり夫と妻とは同棲はし乍らも其經濟は別個であつて、各々名々の財產を持つてゐる。日本のやうに家族一同で產を有するといふのでなく、妻は妻で別の資產を有せねばならぬからであります。生計上餘裕のある人になると、金儲けは致しませんがいろ〳〵な學會に出掛けるとか或は芝居に行くとか又は集會宴會に赴くとかして矢張り夫とは獨立した生活法をしてゐるのであります。一方には

婦人の智能を啓發し學術を普及するために婦人專門の學校も澤山ありまして主婦もよくさういふ講習に出かけます。中には向上心のない富豪の妻や娘は Idle Rich というて何をするでもなく朝から自動車に乗廻はしていろ／＼な要らぬ物まで買込みに「デパートメントストア」を渉つて歩くやうな事をして其日を暮して居る者がある、之を惡口に「アイドル、リッチ」と言つて居ります。詰り歐米の多くの中流婦人は非常に時を惜んで婦人自身の智能を高め地位を向上したいと云ふやうな考へを有つて、重大なる育兒とか家政とか云ふやうな任務を犠牲にして勉強してゐる。我々醫學者側から云ふと婦人第一の義務と思はれる大切な事を寧ろ第二に置て、たゞ學問をし人格を磨き技術を覺ゆるとか云ふやうなことにばかり重きを措いて活動して居るのであります。今度の戰爭になつてからは各國共國情が全く一變したのでありましてさう云ふ婦人を轉じて軍隊に關係ある國家的の仕事を手傳はせるやうになつて參りました。從來主婦として納まつてゐてお尻が重かつた英國の婦人の如きもいろ／＼な愛國的運動を爲るやうになつたのであります。

平和の時に於ける外國婦人は頻りと修養によつて地位を高めやう智力を進めやうと云ふことに熱中して居りますのを日本あたりから始めて外國に行つた旅行者の眼から見ますると實に外國婦人は生氣潑剌である自分の思想を磨くと云ふ爲めに非常な活動努力をして居る、日本などの婦人も亦斯くの如くありたいものだなどゝ考へるのであります。斯ういふ人は歸朝してから何うか本邦の婦人にも大に智力を進め技術を磨くやう勸めて行かなければならぬと云ふことを盛に鼓吹し、婦人地位の向上などを叫ばれるのであります。日本の婦人は一體に頭腦が發達して居ないから朝から晩まで子供の糞尿の世話や臺所の煮炊の世話ばかりやいて居ると云ふ風であつて、日本婦人の生活が如何にも意義の無いものだと云ふやうなことを言つて罵倒して居る人もあります。

併しながら斯う云ふ事は私共の口から云はせれば外國の婦人は誠に貧乏性な婦人で實に憐れむべき狀態に在ると考へるのであります。詰り彼等は婦人の天職を棄てゝ唯自分の獨立的の思想を完うせむと云ふことにのみ努力をして居るのであるが、之は其國情上斯くせねば婦人としての生存競爭に後れるから、已むなく努力してゐるのであつて、つまり國柄の必要から起つたことで、決して婦人の本態ではないのであります。成程さういふ修養をしてゐればこそ外國婦人と云ふ者は日本の婦人に比べて一般に判斷力も確かで又經驗にも富み智力も持てをるでありませう。しかし日本では婦人がそんなに獨立々々と叫ぶ必要は少しもない。婦人の地位は家族主義といふ習慣法の力のために極めて安固に保障されてをるのであります。日本のこの特有な家族制度の美風に較べて見ますると實に歐米諸國の婦人の不幸なる境遇に在ると云ふことを寧ろ同情したい位であります。

それで此席では醫學といふ科學上の立場から婦人の身體と男子の身體との構造上の相違から論及して婦人の能力と男子の能力と如何なる相違があるかと云ふことを簡單に申し上げ、之から出立して實際の場合に於て婦人と男子とは社會に於て全然異つた方面に進んで活動して行かなければならぬと云ふことを結論として申上げたいと思ふのであります。

皆さんも御承知の通り男子と女子とは身體の構造上大いなる差別がある者で、男子が女裝しても女子が男裝しても一見直ちに區別をつけ得る位であります。つまり男子はどこ迄も男性的で、女子はどこまでも女性的であります。之を一々の身體の部分に就て詳しく分析して比較して見ると男子と女子とは著しい構造相異があるが、さて大體に於てさう男女の區別は著甚なものではありません。婦人は男子に比べて一般に身の丈も少さいし又體量も少ない、同じ年齡の者で比較しても違つて居る、それから又同じ職業に在る者とか或は同じ階級の者で比較して

見ても矢張り異つて居る。中には例外もありますが概して婦人の方は體も小さいし體重も少ない、又婦人は胴が長くて脚が比較的短かい。此胴が比較的長いと云ふことは婦人の天職たる子供を持たなければならぬと云ふ自然の必要があるからさうなつて來て居るのであります。頭と全身の長さとを比較すると男の大人では頭は身長の約八分の一であるが、婦人は七分の一乃至六分の一で詰り身の丈が小さい割合に頭の方が大きいのであります。それが生れて一ケ年位の子供でありますと身の丈の四分の一位な頭を有つて居ります故、頭が大いから必ず賢いと云ふやうな譯には行かない。胴長く脚短かいといふ點に於ても、比較的頭が大きいといふ點に於ても女子は小兒に近いのであります。

それから骨骼や筋肉等の發育も男よりは女の方が纖弱でありまして皮膚も女の方が薄く出來て居る。女の方は皮下脂肪が多い爲めに體はまる〳〵として所謂曲線の美を示して居る。それから毛が少くない。是等も矢張り子供に近かい點であります。男女で一番著しい違ひのある所は骨盤であつて、それは先刻も申した通り女子は子供を持たなければならぬと云ふ必要から骨盤が幅廣く出來て居る。

男子は腰幅よりも一般に肩幅の方が廣いのですが、婦人の方は肩幅と腰幅との差が少なく、腰が割合に廣いやうに見えるのである、で斯う云ふ風に體全體の格好が大抵違つて居る。日本では昔から歌麿などの畫を見ましても理想の美人として一般に腰のすらりと細いのを描いてあります、「願くは輕羅となつて細腰に纏かん」などと支那の詩人なども歌つて細腰を以て美人の相としてをります。近頃では衞生的美人などゝ申して程よく肥つた婦人も大分その美的價値を認められて參りましたが實際生理上から言へば柳腰などは感心しません。日本在來の理想的美人の特徵を備へた婦人(腰の細い口の小さい)が現實に存在したならば是は先天性の病人であつて決して健全なる婦人と云ふことは出來ないのであります。

婦人の姿に取つて最も大切なるところは頭の部分であつて此處には婦人の生命から二番目の顏と頭髮がある。又頭には精神作用の座位たる腦も宿つてゐる。御器量については此講演では何も申上げませんが、頭蓋の形についても頭蓋腔の大きさとか、頭顱と顏面との大きさの比とか、頭顱の縱徑橫徑の比較の比であるとか、顏面角と云つて額から鼻棘へかけての線と鼻棘から耳孔へ懸けての線との間の角であるとか、是等について人類學者のいろ〳〵精密な研究をして見ると男子と女子とは非常な相違があると言はれて居ります。又男の子の顏付と女の子の顏付とは一見して非常に相違した特徵を持て居るのは申す迄もないことであります。それから腦髓は生理的作用の中心であり精神の作用も玆に行はれるのでありますが一般に男子と女子との腦髓の重量を比較して見ますと女の方が一割方男よりも腦髓が輕いのであります。昔しから腦が大いものは智力其他の精神作用も優れてゐる。つまり頭の大きいものが賢いと云ふことが云はれてをりますが、之はあてにはならない。學者が有名な人の腦の重さを測つた結果を見るに獨逸のガウスといふ數學者とかカントといふ哲學者とか又日本でいふと故桂公などは普通人に比して腦重量が一割方重いと云ふことであります。併しながら一面には豪い人であるから必ずしも腦が大きいと云ふことは言へないのであつて非常に腦重量の輕るかつた人で又偉らい人もあります。醫學者のペッテンコーヘルだの佛蘭西の政治家ガンベッタなどは千百瓦の腦重であつたと云ふ、普通の人は千四百瓦でありますからつまり三百瓦も少いのであります。斯う云ふやうに普通の人よりも腦量が少くても亦偉らい人もあるのでありますから必ずしも頭が小さいから賢くないと云ふ事は言へない。又腦水腫といふ病氣に罹つた子供などであると頭が非常に大きい。尤も是は腦室內に澤山の水が溜る病氣で、腦が大きくても實質は寧ろ萎縮してたゞ水があるばかりでありますが、隨分普通の人の適はぬ位の大な頭を有つて居

る子供が澤山ある。學者が今日迄澤山解剖して報告をしてゐる中で一番大きな腦を有してをつたのは平凡な男子の職工で其次に大いのが白痴でありました。又女で一番大な腦を有したもの及び之に次いで大きな腦を持てゐたものは三人が三人共氣狂ひであつた。だから腦重は決して賢愚の標準とはならぬのであります。

それで腦の大いと云ふことは決して頭腦が進歩して居ると云ふことの標準にはならないのであります、併しながら婦人の腦は男子に比して小さいが、その身體も亦小さい故婦人の腦は體重の割合には大きいのであつて詰り女は比較的腦が男子よりも大いと云ふことは言へるのでありますが、前にも例に取つた通り生れたての子供の腦の重さは凡そ四百瓦位あるのに體重はざつと三千瓦位であるから、腦の重さが割合に重いからと言つてそれが必ずしも進歩した腦だと云ふ譯には行かないのであります。其他いろ／＼腹の中の器官卽ち內臟に就て比較を申しましても(勿論生殖機能に關係のあるものは除く)肝臟が一體に女子の方が男よりも體重に比して大い、此の肝臟に就て序でに申し上げますが西洋婦人は「コルセット」で堅く胴を締めるので、肝臟が横にしめ縛くられて瓢簞なりになつて仕舞つて居る。彼等は腰を少時からしめくゝつてその細いのを以て嬉しがつて居るが、是は甚だ不自然であつて、肝臟にとつて迷惑であります。日本婦人も現代は割合に帶の締方が緩やかになつて來ましたが、隨分昔の人は幅廣の帶で堅く締めたもので、それを婦人の身嗜みの一つとしてあつた位であるから、年を寄つた婦人などの肝臟は西洋人のやうに細く縊れてはゐないが、縦に大な皺が何本も表面に寄つて居ります。此頃のお若い方などは餘程帶の締方も弛るやかになつて來たやうですから、解剖してもそんな特徴はありますまい。

それから婦人は咽頭――喉頭が男子よりも小さい男子は十四五歳から十六七歳にかけて喉頭が急に發

育して來る、從つて聲帶も延びて銅羅聲を出して聲變りがする。ところが婦人に於ては斯う云ふ事はない、詰り男子と女子とは十四五歳までは聲帶の模樣が全く同じであるが十四五歳に於て男子の喉頭が急に大くなつて來るのであります。詰り女の聲帶は子供の時のまゝであつて、之も婦人が子供に近いと云ふ一つの證據であります。こんな相違を述べてゐると實に限りもない程でありまして、一體に男子と女子とは全身の各部に亙つて精細に比較して見ると非常な大なる違ひがあるのであります、從つて其の作用の上にも相違を生ずると云ふことは免れぬことであります。

それから又婦人には婦人獨特の病氣が澤山あるのであります。又病氣ではなくても婦人には病氣に類したやうなこと卽ち月經、妊娠といふものがある。その中妊娠は全くの病氣でないとしても之から多くの病氣を引き出すもとになるものであります。兎に角婦人科とか產科とか云ふ醫者の學科が特別に設けられて其專門家がある程でありますが、男の方はそれに相當する專門の醫者と云ふやうな者も無い。それだけ婦人の方が病氣が多いのであります。それから月經時にいろ〳〵變はつた現象が起ることがあります。折々新聞紙上などに身裝の卑しくない婦人が「デパートメントストーア」などで能く萬引をしたと云ふやうな記事を見かけますが、それが何うかと言ふと買へないで盜む譯ではない。能く調べて見ると大抵は相當の敎育も受けたやうな又相應裕福な方であり乍ら友禪の小片など割合つまらないものを盜る、是は貧の盜みなどではなく何か他に生理的の原因があつてさう云ふ氣になるのであります。精神病の發作や自殺などの起る時期の統計を見ましても、又現行犯のために警察に拘引されたものに就て調べて見ましても婦人に於ては大抵月經の時にさう云ふ發作が起ることが多い。卽ちさういふ者の約八割は月經時であると云ふことであります。最近で著名な例でも松井須磨子の自殺は月經中であつたことが新

聞に載つてゐました。即ち月經時は神經狀態が不安定になる時期で女子に取つて甚だ不都合な症狀が起り易い時なのであります。男子に於ては每月或時日に限つて精神狀態が變はつて來るなどゝ云ふことは決してありません。

それから妊娠は生理的のもので病氣ではありませぬが多くの婦人では殆んど病氣と同然な苦しみをしなければならぬし又それに就て直接間接に本當の病氣を起すことも多いのであります。是も亦產科と云ふ專門の醫學分科が設けられてあると云ふ位複雜な作用であります。斯くの如き方面の事は除きましても、それ以外に尙ほ女子は男子よりも病が多いのである。病氣の中で胃癌とか脚氣とか多くの精神病とか云ふやうなものは男の方が遙に罹病者數が多いので、男の患者數に比べると女の患者數は半分にも足りないのであります。それから是は日本には割合に少いが歐米諸國に多い病氣で萎黃病と言つて若い妙齡の少女が貧血のため殆んど死んだ人のやうな顏色になるところの病氣がありますが之は女特有のものであります。婦人には婦人獨特と昔から言ふ持病の癪だとか「ヒステリー」だとか云ふやうな病氣がありまして、之は男子に比して女子には非常に多いのであります。胃癌の如き病氣が男子に多いと云ふのは男子は一般に外へ出てゝ體を使ひますので自然酒を飮むとか或は隨分如何はしい物なども食べるし宴會などに出る機會も多くむら食をするし又食事の量も男子の方が多いし又美食の機會も多いから從つて其等の刺戟から胃癌などが男に多いと云ふことになるのでありませう。つまり外から働く原因が違ふためにそれに因つて病氣の具合も女子と男子とに於て違つて來るといふ關係も無論あるのであります。併しながら元來男と女とは本來の體質が違ふのでありますから女の方に比較的多く來ると云ふ病氣も自然澤山生ずるのであります。先程申した「ヒステリー」などは男子の方には滅多に無い病氣であります。概して女は體質が纖弱で抵抗が弱いものであると言ふで

差支へないと思ひます。斯う云ふ工合に男子と女子とは解剖上相異な點があるばかりでなく生理的作用の上から言つても違ひがあるのであります。感覺は一般には女の方が鋭敏であると言はれて居るが實際に學者が研究して見ると必ずしもさうでない。感覺の種類によつては男子の方が鋭敏な者もあり、又女子の方が敏鋭な者もあります。一般に女子は手先が器用だと謂はれてをりますが、實際實驗して見ますと運動の敏捷とか、運動の確實性とか又確實な判斷力は却て男の方が女よりも優れて居り、又推理力と云ふやうな點も男の方が勝さつて居る、亞米利加人が男女の電信技手の競技をさせて比較して見た結果から評する所に據ると女子の信號は不正確で且疲れ易くどうも永續きがしない。一つ〳〵に就ては非常に眞面目に仕事は爲るが長い間行ると疲れて永續が出來ないと言はれて居る。是は日本あたりでも同樣に卷煙草卷きや絲紡ぎなどで研究して見まするのに女子は困まる事にはどうも同一の巧みさで永續きがしない。すぐに疲れて了ふ。昔から產婆とか裁縫師料理人などは女子に最も適し女子の專業と云つてよい位なれど是等に致しましても其研究の根本は男子が致しましたもので、產科技術の研究、裁縫の器械の發明抔は女子がしたのでなくて皆男子がしたのである、裁縫は女でなければ出來ないかと云ふと男子の方が仕上も確實で出來上りも一段上に出來て居る。女の文學者もあるが併しながら第一流の文學者は男であります。音樂なども婦人に最も適したもので日本でも琴三味線などは婦人の手により弄ばれるし又外國でも「ピヤノ」などは何の家庭にも必ず備へて在りますが、さう云ふ方面でも一流の音樂家と云ふと矢張り男子の方が多いやうであります。又學問の方面でも一流の學者はいつも男子であります。日本でも數學者や化學者などにも婦人の學士が澤山出來ましたが將來はいざ知らず、日本でも外國でも「アカデミー」(學士院)の第一流の大學者として其會員に未だ嘗て婦人が擧げら

れたことはないのであります。
兎に角精密に調べて見ますに、婦人が必ず劣つてゐるといふ譯ではありませぬ。例之智力の大體に於て婦人が男子に劣るとは申せませぬが、どうも抽象作用、つまり物事を其形を離れて意義のみに就て考へるといふことに於て婦人は下手なやうである。凡て學術の研究には分析と抽象といふ兩要素が根本的に必要なのでありますが、婦人は一般に實際的の事を好んで抽象的の事を好まず、此方面に至つて不得手なのであります。

又畫とか彫刻とか又刺繍とか云ふやうな技術の方面に於ても婦人中に優れた技術を有つた者もあるが是等も第一流と稱せらるゝ者は男子でありまして、男子の能力は行くとして不可なるなく、どの方面にまでも喰込んで居る。一體に女子の精神能力に於ては秩序的に問題でも考へて結論をすると云ふことは困難なのである。從つて婦人は誠に記憶力が良く忍耐で且つ勤勉で小さい所にも注意深いと云ふ能力の特色がありますが、併しながら最後の問題を解決すると云ふ大切な所に到りて推理、洞察、創見、決斷力等に於て何うしても男子に敵はぬ點がある、其爲めに多くの學術に於ても政治上の問題等に於てもまだ〳〵男子を凌ぐやうな位置に立つといふ譯には行かないのであります。

それから婦人は感情が一體に脆く物事を兎角感情的に且自我主觀的に扱ひ易い傾向がある。だから他人に附隨し之と雷同して事をするには支障はないが、婦人自ら社會に獨立して實際の事に當ると云ふ時には何うもよくない點が多い。男子は一々の場合愼重公平に考へて行るから間違が少いが兎角婦人の爲る事は感情に導かれ易いのであります。そのため後から後悔するやうな事が多いのであります。一寸した雜談などをすれば婦人方の方がずつと話し上手であつていらぬ事までもおまけして饒舌な事は到底一般男子の敵はぬ所でありますれども、兎角婦人の談話には內容に無駄が多い、であるから手紙などに

致しても同じ事柄を書くのに婦人の方は中々ながながと廻りくどく書いてある。長く書いてはあるが偖て内容に於ては誠に貧弱である、女學校と男子の中學校の生徒の課題による作文を相比較して見て統計的に研究した人がありますが、何うも作文の内容形式等に現はれたる能力に於て女子の方は男子に劣つて居ると云ふ。それから女子の特色の一は兎角虚言が多いことであります。虚言と云ふと少し語弊がありますが、つまり表面を美しく飾ると云ふやうな傾がある。言語や行動に於てどうも見榮を張り、うはべをよくしやうといふ傾向が女に多い。男のやうにあけすけと薩張しない。女流の著述家ドームといふ人は其自著の中に女は兎角に虚言を付くと云ふことが慢性の病氣であつて、祖先のイブの時からの遺傳の病氣だと書いてあります。メービウスといふ精神病學者は女子には身體にも精神にも男子に優れた所はないが、たゞ饒舌といふ才能に於て男子を凌いでゐる。つまり多辯と虚言とが女の武器だと申してをりますが、是はちと酷評ではあるが詰り是が女子の特殊の點であつて、詰り社會の交際術もこのために上手な譯である　心理學者ハイマンスは女子は元來正直だが感情に富んで居り又社會に於ける及び家庭に於ける地位が男子に比して不良なため知らず識らず虚僞の行動に陥るのであると云ふて辯解してをります。

それから婦人には何うも義務の觀念であるとか正義の觀念であるとか云ふ難ケしい道德上の問題についての理解が薄い。一般に男の方が理智がきび〳〵してゐるが女の方は情に驅られることが多い。婦人には同情があり忍耐がある故。病人の看護であるとか或は子供を育てることであるとか又煩雜な家庭の細かい仕事を處理して行く上に於ては男子の方はとても及ばない。是が女子の長所であります。つまり茲には男女性格の何れが優り何れが劣るの優劣を論ずると云ふ意味ではありません。つまり事實上男女の間に上述のやうな特質の相違があると云ふこと

を申上げるに過ぎないのであります。

斯う云ふやうに明かに男子と女子との間に身體及び精神の構造及び作用の上にいろ〳〵の性來性の相違があることを深く考へると自然此處に婦人でなければ出來ない仕事もあり又婦人には出來ない仕事もあるといふことに氣がつくのであります。それで社會の經濟のためには婦人は婦人に適當した仕事をして社會に貢獻して行き、各々分業して男子は男子女子は女子と云ふ分を樂しんで行かなければならない。例へば女子の特徵としては非常に辛抱強く且柔順で大抵は負けても口惜しからず自暴自棄も起さない。又こぼるゝ許りの愛嬌があつて交際が上手であり情に脆いことの方面は男子のとても及ばぬ所で、する事が一體に綿密で忍耐で柔順で、友人等の世話とか又世帶の處理とか云ふやうな事には婦人の能力が最極度にあらはれてゐる。併しながら之に反して政治とか商業とか云ふやうな事柄にかけてはあまり成功しない。頭腦をつかふ職業に對しても婦人は不可能と云ふ譯ではないが實際に於て男子に及ばない。即ちずつと始めの問題に上つて申し上げますに、この女權擴張、參政權、婦人開放、地位の向上と云ふやうなことを頻りと外國婦人などが此頃唱へてをります。英國に於きましては既に婦人の參政權を許るされ、米國に於ても或洲では婦人が選擧權を獲得しました。今度の戰爭に當りましては擧國皆男子は兵役につくため從來に男子でなければ執れないと考へられてをつた職業も必要上婦人が代つて執らぬければならぬことになり、之も大抵の事は婦人が充分男子のやつただけの實績を擧げて行くことが出來るといふ結果を見るのであります。外國では赤十字の事業などは殆んど凡て婦人の手丈けで事務をとりまして、男子の有力な後援者となつてをります。赤十字の事業は日本では主として男子が執つて居りますが米國あたりでは殆んど率先して婦人のみで執りて居ります。最近日本に參つた婦人の飛行家が澤山ありますが、飛行家まで婦人に達人が現はれました、

それから獨逸、佛蘭西、英吉利等に於て戰時中女子の車掌、運轉手、機關手、郵便局員、市役所吏員など澤山出來ましたそれ等の事務は從來は男子が專ら行つて居つたのであるけれども婦人が行るやうになり、決して能率に於て大して劣りません。今では女子が役所や會社に澤山使用されて中々能く働いて居るやうになりました。遂には圖に乘つて參政權を得たいといふ活動までも始めたのである。併しながら政治商業上の事務等は元來男子でなければならないので、婦人には臨機應變の處置をする頭腦と決斷がない。たゞ杓子定規の經常事務は一時婦人に代つて貰ふことが出來たのでありますが、これは必ずしも婦人に限ることでない。然るに一方にはどうしても婦人でなければならないと云ふ仕事が澤山ありまして、とても男子に代りが勤まらぬものがあるのであります。

婦人を事務員として使用された人が今日其結果に就て批評して居らるゝのを見ると婦人には寧ろ著しい缺點がある、第一婦人にはお休が多くて困る。細事に綿密で誠に事務が捗が行つてよろしいが、どうも臨時のお休が多いので困る。毎日當てにして居ると、今日は一寸體の工合が惡るいとか何とか云つて能く休む。それから婦人事務員の執務上の缺點は自分の仕事の爲め間違などがあつても其間違を自分から見付けて直さうと云ふことをしない。萬一間違が生じた際にも其原因を自ら搜がすと云ふやうな事はしない。之は婦人の心理作用から來ることであります。又長い時間仕事に就いて居ることが出來ない。根氣が薄くどうも疲勞し易い。さう云ふやうな缺點があるのでどうも同一の職務や地位に永續しない。又物を能く理解して判斷をすると云ふことをせぬ。たゞ上面だけで手輕に呑込んで、手前判斷をしてすましてゐる。あとから考へ違ひが發見されてあゝさうでしたか私は斯々だと思つたものですからといふやうな辯解が起ることが多い。斯う云ふ風であるから細密な簿記上の事務を執るといふ職業は婦人に餘

り適當して居らぬと云ふことを結論として述べてをります。

それでは婦人の能力や其特有な生理的條件を參酌して見て偖て婦人に最も適應する仕事は何であるかと云ふやうな事を考へて見ませう。是は各外國婦人に就て述べて居る人の意見によつて見ましても又日本固有の家族制度といふ立場から申しましても婦人に適合する最もよい職務は家政を執ると云ふことにあります。それも他人に雇はれて他人の家の家政をとるといふよりも自分の家に定まつた縁家の家政をとると、慾も手傳つて誠に都合もよい。それからもう一つ婦人でなければ充分に出來ぬことは育兒といふことです。之も他人の子を預つて育てる職業もいいがまづ第一に自分の兒を完全に育てるといふことに努めねばならぬ。之れも愛情が手傳つて誠によろしい。此家政を執り育兒を爲す一方から云つて婦人の適職ではなく、むしろ婦人の天職でありまして、夫婦揃つた家庭では通例男子は他に出て働いて居るものであるから其の後に廻つて生活の上に内顧の憂なきやうに致さねばならぬ。婦人と男子とが銘々が異つた注意を要するやうな仕事を引受け相輔け合つて夫婦相互の圓滿な樂しみを遂げて行かねばならぬ。さうすれば女が一日外へ出て儲けて來る位の收入は内顧の憂なき男子は易々と附加收入として得て來られる、つまり婦人が働くも同じ結果であつて、而も社會全般から云ふと此方が却て能率が高いのであります。外國では男子に充分の收入がないので妻を養へないから、つまり未婚の女が澤山出來る。女も養つて呉れる夫がなければ自分で自分丈けの口を糊して行かねばならぬから、いろ〳〵職を求めて男子の領分まで蠶食して行く。そのため男は益々收入が減つて結婚難になつて來るといふ次第です。だから外國では一生獨身生活を立て通して自活をしやうと決心するやうな婦人が多くなり之が男子へのあてつけに女も思想上生活上獨立して居らぬければばならぬなどと唱へるのですが、實は自活せざるべから

ざる境遇の者が段々と外國では殖えて行くやうになつて來たのであるのであります。併しながら日本の今日の家族制度と云ふことは美しい制度でありまして、女は夫の内助さへしてゐれば表立つて働く必要は少しもないといふ有難い社會制度になつてゐるのであります。之をすてゝ自ら自活しやうなどと、自活を高尚なことのやうに唱へる今日の傾向は甚だ日本婦人にとつては向見ずな輕擧な傾向であると思ふ、好んで窮地に入るやうなものだと思ふ。斯う云ふ點は寧ろ外國のやうな社會制度を改造して婦人の自活の必要を生ずる如き社會事情を一掃して日本のやうな婦人の天國にしなければならぬ。外國でも當節は家族制度を切に望んでゐる婦人が澤山あるのであります。幸に日本と云ふ婦人を擁護する天國に生れた婦人は飽くまでも此の制度を進め且維持せなければならぬ。婦人自ら手を動して自分の腕で生活して行かなければならぬと云ふやうな歐米各國婦人の如き慘ましいみじめな婦人の地位境遇と比較しては日本の社會は寧ろ婦人にとつて幸福の進歩した國であると思ふのであります。

上記の如く醫學者の立場として多くの方面から見て婦人の特徴を研究して見ますと婦人に取つては規則正しい繁雜な事務や、甚だ抽象的な判斷力を要するやうな學問的研究とか云ふやうな事柄に於ては、或程度までは婦人でも一流の人物になることが決して不可能だとは云はないが、決して得手ではない。さう云ふ事はむしろその方に一般に堪能な男子に委せて、さうして婦人は婦人に適合する他の特色ある職を選び、婦人獨得の地位に安んじて其自分の「ベスト」を盡すと云ふ方が社會制度の上から言つても各個婦人にとつても甚だ圓滿幸福な結果を與へるであらうと思ふのであります。昔から既に凡ての宗教に説かれる處によつても又道德の問題として論じられた所によつても男子と女子とは決して個々別々に相離れて生活し得べき筈の者ではない。然るに外國婦人は男子と女子と別々に離れ、婦人が男子の力をか

らず獨立に生活をしやうとして地位の向上や能力の研磨を努めて居る、或は已むを得ない社會事情の存在して居るからでもあらうが、之は婦人の生理的條件を無視し、又夫婦相和の人倫の大本にも悖つてゐる。之は婦人が獨立するよりも先づ寧ろ斯う云ふ間違つた社會事情の方を改良してさうして婦人の地位と云ふものは飽くまでも男子と提携して行かなければならないやうに努めることこそ眞に婦人らしい努力でありませう。實際完全な一人として生活して行くには婦人は婦人、男子は男子と云ふやうに別々の方向に向つて行つては成立すべきものでない。必ず男女相扶けて行かねばならないのであります。さういふ立場からでなければ理想的な職業問題の解決を爲すと云ふことは不可能でありませう。婦人が年若い時にいろ／＼の事を學び習ふにしましても詰り結婚をして後男子と提携して圓滿なる家庭を造らうと云ふ準備をする爲めに學ぶのであつて、決して其覺えた藝や職業を身を助ける自活の足しにすると云ふやうなことでは全くない。外國の婦人が「タイプライター」を學び速記を習ふにしても、それは結婚期が來るまでに結婚費用を蓄へるために、一時人に雇はれるためで、その證據には結婚後まで「タイピスト」をやつて給金をとつてゐるものはありません。結婚するや否や「タイプライター」を全くすてゝしまふ。往々結婚後も自ら「タイプライター」を叩いて夫の事務の助けをすると云ふやうなことはありませうが決して夫が勤務するのに、自分も月給取になつてそれを以つて自分の職業をしやうとか獨立の職業としやうとか云ふやうな觀念ではないのであります。つまり之は婦人の職業と申しましても之は自分の地位を成るべく高くし結婚の下地を作らうといふつまり結婚の準備のためにすると云ふやうな譯であつて、結局唯一種の手段として職業に從事して居るやうに思はれる、自分を保護してやらうと云ふ夫さへ得られれば誰が好き好んでいつまでも骨折仕事をしてゐるものですか。すぐやめて了ふ。是が恐らく本當であら

ふと思ふ。然るに淺薄なる翻譯者などが婦人の職業問題に關する外國のみじめな「オールドメイド」の說を紹介するのを、高尚な事のやうに思つて婦人の理想として女子は男子と同樣に獨立して自分の習ひ覺えた職業を以つて獨立的生活を立つるが爲めに職業を覺えるかの如く考へ、もつと婦人の待遇をよくせよ、地位を與へよなどと叫ばるゝのは少くとも我日本帝國では少しく見當違ひの論ではなからうかと思ふ。

英國に於きましては女子の問題が段々やかましく唱へられまするためか、最近に全英國の女學校敎員會議がリヴァープールに於て開いた席上完全なる婦人敎育の理想と云ふ事に就て討議を致しました。その時の決議の結果が實に日本人にとつて意外なことが多いのです。外國婦人の理想ならば每日「ダンス」をやり、「パーチー」を催し、家政や育兒をそつち除けにしてゐる事と思はれるでせうが、實は違ます。日本固有の婦人の理想に甚だ近いのであります。一つ全文を翻譯して御紹介して見やうと思ひます。英國のやうな保守的な國柄に於て婦人と云ふ者はどう云ふやうな事を理想として居るかと云ふに、女學校の敎員さんの理想でありますから、是は女學校の生徒さんの理想とは少し違ふかも知れませぬが――兎に角英國の婦人の理想といふ點から見ると至極面白い事であります。それには澤山の項目がありますが、まづこんなものです。完全な女子としては年齡方に四十歲、夫を有し既に五六人の子供の親となつて居り、住宅は大都會を少し離れた閑靜な片田舍で氣樂に生活をして、自分が家庭の中心となつて子女の敎育等に熱中してゐます。さうして家の內も誠に小ざつぱりした心持良き住居でいろ／＼の家具什器飾付衣裳など如何にも質素ながらその間に何とも云へぬ高尙な品位が存して居る。主婦は誠に物やさしい心持の落ちついた情緖の豐な人で、且家庭の事務を執らせると敏捷で、只管一家の平和を圖つてをります。外に出ては自分の國を愛し、政治に對しても多少の理解を

有ち、貧民の救濟、社會事業、慈善事業人助けと云ふやうな事にも力を盡されるし、能く交際術にも長け、又一面には宗敎心が深く、神に對して信仰があり、他人に對して義務心が厚いといふのであります。是れから先きが少し日本人には惡るいのですが、時々散歩もする、自轉車にも乘り山にも登り、游泳もやる。舞蹈も上手で「ボール」位も抛り、「ボート」も漕ぎ氷滑りもやる。馬術などは甚だ巧で、自動車の運轉位は自分でする。さうして實用向の技藝に通じ家事向の事何くれとなく上手で、家事一切自分一人で何も彼も切り廻します。多少の敎育があり理想もあつて子供の敎育は一切自分で皆引受けて始末する。經濟上の知識も多少備はり、金融の理屈も知り、「タイプライター」なども上手に打つ。日本では手紙を上手に書くと云ふやうなことが必要でせう。英國ではその代りに「タイプライター」を綺麗に打つ。それから堅い書物も讀み、毎日一通りの新聞雜誌を讀み、小說講談ばかりでなく眞面目な方面の記事も讀みます。

外國語は三ヶ國位の語は用らるゝ、其他藝術上の理解力もあり。自ら彫刻や刺繡や美術品の製作などもやれる。園藝にも多少趣味を持てゐなければならぬ。と。是だけの事を以つて英國の敎員は婦人の理想の標準と致して居るのでありますが。此中にはありありと私が申す家庭本位と云ふことが理想として現はれて居りますので、どこに婦人の職業とか地位とかの向上論がありますか、婦人が年齡四十歲に達すれば五人の子供の母でなり、自分が家庭の中心となつて專ら家政をし子女の敎育をしなければならぬといふことは日本の在來の婦人が昔しから唯一の理想として來た所であります。英國では今度の戰爭以來婦人が大層鼻息を荒くいたしまして此機に乘じて英國では參政權獲得運動に成功し又米國の各州でも婦人の選擧權獲得のため騷いだのでありますが、さう云ふ當時に於てすら全英國女學校敎員會議の決議として前のやうな事を理想として擧げてゐるのは、實に之が虛からざる心でせう。元來英國なぞは昔から婦

人が高ぶつて威張る國柄で一般に英國婦人と云ふ者は歐米各國の婦人中でも一番品の良い大風な者として通つて居る。さう云ふ國柄であるけれども詰り婦人の將來の理想としては婦人は飽迄家庭の中心にならねばならぬと云ふ事を言つて居る。況して日本の家族制度といふものは我國の國粹として廣く外國人にも羨まれてゐる位なのに、その國の婦人達が譯も知らずに婦人の獨立とか職業問題とかを主張するといふ必要は決して無い。斯う云ふやうな輕卒な妄動をする婦人が將來家庭の頭に立たれては詰り日本のこれからの社會狀態は甚だ寒心すべき有様になると申さねばなりません。日本には歐米各國人のやうな生活に困迫した、夫のない痩せこけた眼が窪んだ如何にも生活の苦勞に疲れてゐるといふやうな婦人などは澤山ゐない。從つてそんな神經質な外國の一部の婦人の唱ふる過激な文字を其儘翻譯して日本の社會に婦人問題が切迫して來たかの如く說くと云ふことは論者の甚だしい早計な偏見であると同時に甚しき迷誤であり又害毒であると思ふ。吾々日本國民はまだ〳〵そんな事を理想としなければならない程一般婦人は切迫してゐない。皆英國の敎員の欲するやうな理想の「タイプ」に近い生活をしてゐるのであります。斯く日本の如き婦人にとつて幸福なる國に於て早計な婦人問題などに就て雜誌などが議論を並べると云ふことは社會の爲めに甚だ寒心に堪へぬ結果を起しはせぬかと寧ろ心配するところであります。

幸ひ今日はお若い方々や又御年を召した理解のある方々が大分お見えになるやうでありますが、早計な方々の口から斯くの如き日本の婦人問題に就て云々せられるやうなことがあつたら、どうかさう云ふ方方に御傳言を遊ばして戴きたい。今日唱へられるやうな婦人問題は向ふ河岸の問題でまだ日本國の實際問題ではない。日本人は婦人獨得の能力を自覺したやうな地位と職責とに努めて少しも不平不足を云はぬのであると申して下さい。今日は婦人問題といふやうなことを醫學上に於て婦人の生理的特質を研究

した上から論じて見たら一面に御參考になりはせぬかと思ひまして、斯樣な極く詰らぬ話を申上げた次第であります。

叢談

室内の塵埃

醫學博士　佐々木秀一

一、呼吸器病と室内空氣

呼吸器病の患者に向つて、醫者も家庭の人も好んで轉地を薦めます。何故に轉地すると呼吸器病の爲に良い結果があるかと云ふと、夫には色々な原因もありますが、重なる理由は二つあります。第一は患者が家庭の人になつて居ると兎角精神上の刺戟が多くて靜養に適さない。然るに閑靜な土地に來て精神の安靜を得ると全身に亙つて佳良な影響を及ぼすのです。第二は都會の繁華の土地よりも田舍や林間や海岸などは空氣の性質が良いので呼吸器の炎症を少なくして自然的治癒を促すに適するのです。然しながら之に反して都會は萬般の人事が都合よく便利に調ひますが、僻地にゆくと其便利が缺けて、却つて患者に不良の影響を及ぼす事もあるので、醫者としての私は患者に向見ずに無暗と轉地を薦めない方針を採つて居ます。其代りに一方には患者の精神を安慰して無益な刺戟を避けるやうに努めさせ、他方には室内空氣を出來るだけ不良にしないやうに努めさせます。啻に呼吸器病患者に限らず、一般の人に向つても室内の空氣の衞生に注意する事は甚だ必要な事であります。

一、室内空氣の不良原因

室内空氣が衞生上不良になると云ふのは如何なる場合にあるかと云ふと、是には大體二種類あります。

一は空氣の化學的性分が不良になるので、一は空氣の中に塵埃が多くなるのです。第一の化學的性分の惡くなるのは室内に人が多く居て呼吸をする爲に、空氣中の酸素が減じ炭酸や其他呼出瓦斯が蓄積するとか、又は室内に炭火を用ゐて同樣に不良の瓦斯を發生するとか、其他室内の不潔物や、臺所下水便所等で發生する不潔瓦斯、又た地中、牀下、疊下、戸棚等より發生する不潔瓦斯が室内に蓄積するのであります。此豫防には家屋の構造に注意し、室内の空氣の交換を良くしなければなりません。先年私は此雜誌に換氣の話を掲げましたから此事の細説は省略します。次が第二の室内の塵埃であります。

一、室内の塵埃の種類

室内の塵埃と申しても紙屑、布屑、木片、藥片の如き大きなもの、言ひ換へれば眼で見え箒で掃き出せる塵は、衛生上又は清潔上良しくないには相違ないが夫は大したものではないので、夫よりも一寸眼に見えない而して風で飛散する所の塵が衛生上甚だ重要なのであります。是を私は假に風塵として置きます。此風塵は箒では充分には拭き出せない、箒の使用法が惡いと拭き出せない許りでなく却つて箒は風塵を飛散させる道具に過ぎない事になつて居るのです。此風塵を大別するとまた二種類あります。一は礦物性の砂塵で、一は植物性の纎維塵又は毛塵であります。

第一の砂塵は主として道路の土が乾いて風で飛散するのです。東京市内の道路は悲しい事には殆ど全部不完全なもの許りで砂利で堅めたもの故、下駄の齒や車の輪で之を粉末にします。故に風が吹くと砂煙になつて濛々と飛んで人家に侵入します。軒下に隔のある家の天井裏に這入つて見ると其砂が何時となく積つて厚く敷かれてあります。其塵が天井板の隙間から落ちても來るのです。又疊や敷物や蒲團の目の内にも多量に侵入して居るので之をひなたで叩くと其塵の出るのが見えます。板の間や「リノレウム」の如き目のないものゝ上だと粉を撒いたやうに

見え足で跡むとザラ〳〵して感じます。此砂塵を無くなす根本はと云ふと都市の道路を改良すべきでありまして、世人に衛生的思想を普及させ、道路の改良に要する費用を惜まずにウンと出させるやうにならなければ駄目であります。次に家の構造に少しく工夫を加へ、室内の掃除方法にも工夫を加へなければなりません。

●●●第二の毛塵は重に人の衣類から出來るのです。衣類は悉く纎維から出來て居て、木綿でも麻でも絹でも毛織でも皆細かい纎維です。此衣類の纎維は衣類を一寸動かした許りでも切れて飛散します。室内を歩けば衣類はどし〳〵切れて毛塵になり、いつとなく裾が切れ袖口が切れ、毛織物ならけばがとれて織目が出るやうになります。此切れた纎維は室内に無數に飛んで居るので皆鼻の孔や口の内に吸ひ込まれます。衣類許りではない夜具蒲團を延べたり疊んだりする時は隨分此毛塵がとびます。私は自分の外來診察の時には一時間毎に牀の水拭をさせる習慣にして居りますが、二三十人の人が衣服を脱たり著たりするので隨分と毛塵が出ます。看護婦に一時間毎に水拭掃除をさせる爲めに一種の掃除器械を考案して夫で體裁良く樂に掃除の出來るやうにしてありまして、其器械では同時にどんな種類の塵があると云ふ事も判るのですが、織物の塵は赤い、青い色々に染められた纎維の切れたものである事が良く判ります。夫であるから込合ふ電車の中や、人の群集する商店や劇場の如きは何の位ひどい毛塵であるか判らないと思ひます。

●●●以上の外、塵埃の種類としましては石炭「ストーブ」でも用ふる室では炭の粉と灰とが多く火鉢を多く用ふる場所でも同じです。又た種々の職業で各其職業の塵があります。例へば「セメント」職には「セメント」の塵、粉屋には穀粉、石屋には石の粉の類です。又た煙も一の細かい炭末の塵で、煙突の多い町に此塵は多く煙草を好む人の家にも多いのです。其外、種々黴菌が極細かい塵として空氣中には飛散して居

りまして其内には危險な病原菌もあるので種々の病氣の基にもなります。

（未完）

胃癌の話

醫學士　篠原昌治

凡て疾病と名のつくものは、如何なる種類のものでありましても、これを好む人のあるべき筈はありませんけれど、殊に癌腫は、あらゆる疾病の中で最も嫌忌すべきものとせられて居ります。それは本病が殆んど不治の疾患であるのみならず、癌腫は其數に於ても決して少きものではありませんから、多くの人は本病の爲に苦しめらるゝ人を親しく目撃するか、又は其苦痛の狀態を傳へ聞いて居りまして、夫れが爲に癌腫と云へば、それが直ちに人の貴重の生命を奪はでは止まざる最も厭ふべき恐るべき疾患であると云ふ感じを與ふるからであります。其癌腫の中でも最も多數なるは胃癌であります。夫故爰に本病に就て其大要を御話したいと思ひます。

癌腫は斯く恐るべき疾病でありますから、本病は如何にして發生するものであるか、又如何にすれば之を治癒せしむることが出來るかと云ふことは醫學上の大問題でありまして、是等のことは常に多くの學者によつて種々研究せられて居りますけれど、まだこれを發見せらるゝに至りません。

本病は男女何れにも發生しますけれど、男子は女子よりも稍々多數でありまして年齡は四十歲より七十歲迄のものが多く之に罹るもので　ありますけれど、時としては少壯のものが之に罹ることもあります、併しそれは極めて稀なることであります。

本病が遺傳するか否かと云ふことは問題であります、時としては一家族中の多數のものが本病に罹ることがありますから、本病は遺傳するものであるかの如く考へられますけれど、元來本病は稀有の疾病ではありませんから、偶々一家族の中で多くのもの

が之に罹つたとて、それが果して遺傳に因るものか又は偶然の出來事であるかと云ふことは容易に決定せらるゝものではありません。

本病が時として外傷に續發することは屢々實驗せらるゝ處でありまして、其他慢性の胃潰瘍より胃癌を誘發することあるは疑ひもなき事實であります。

本病は其初期に於ては普通慢性胃加答兒と異なることなく、何等の特徵を有するものでありませんけれども、時日の經過するに從ひ漸次本病に特有なる症狀を發するものであります。

本病は慢性の胃疾患を有するものに徐々として發生することもありますけれど、それよりも從來胃の健全なりしものが急に消化障碍を以て發病する場合が多くあります。

本病に罹るときは、患者は先づ食慾不振を訴ふるものでありまして、其際肉類、殊に蛋白質を嫌ふ樣になります。胃に於ては異常醱酵を生ずる爲に常に噯氣を催し、それは時として無臭のこともありますけれど、屢々又甚しく不快の臭氣を放つことがあります。胃部には壓迫膨滿の感がありまして、屢々疼痛を發するものであります。疼痛は多くは食物と關係なく發作性に來るものでありまして、其痛みは牽くが如く、刺すが如く、灼くが如きものでありますけれど、時として痙攣樣のこともあります。其部位は心窩部又は其右側或は左側に來り、脊部又は腰部に放射することがあります。

胃癌は屢々嘔吐を來すものであります、而して其頻度は胃癌の位置によりて甚しく相違する處でありまして、胃の噴門又は幽門に癌が發生した場合に最も多く之を見るものであります。嘔吐する前には先づ惡心、胃部の壓感、疼痛等を發し、之に續て嘔吐を催し、其後には一時大に輕快を感ずるものでありす。吐物は多くは食物の殘片を有し、時としては其中に數日前に攝取した食物を見ることがあります。

本病は屢々又吐血を來すことがあります。併し胃癌の吐血は胃潰瘍に比すれば其頻度に於ても又其量

に於ても遙かに少きものであります。而して多くの場合に於きましては、其血液は癌腫の潰瘍面より浸出し、胃中に停滯したものが吐出さるゝのでありますから、吐物は胃潰瘍の如く暗赤色を呈せずして、黒色又は褐色を呈し、其外觀咖啡汁又は小豆汁の如き狀をなすものであります。以前は吐血を以て胃癌の症狀中最も大切なものとせられて居りましたけれども、小豆汁樣の吐血のみを以て直ちに胃癌と決定せらるべきものではなく、其症狀は他の固有の症狀と同時に來るか、又は反復吐血する場合に於てのみ胃癌の診斷を確定なさしむるのであります。

胃癌を發生するときは必ず胃部に硬結を生ずるものであります、併し其初期に於て硬結未だ小なるか又は腹壁が甚しく緊張して居る場合には、容易に之を外部より觸知することが出來ませんけれど、腫瘍が漸次增大し、又は患者が羸瘦して腹壁が弛緩すれば容易に觸知せらるゝのみでなく、腹部を一見して腫瘍の存在を認むることが出來る樣になります、而して此腫瘍を證明せらるゝ場合には、多くは胃癌の診斷は確實となるものであります。

胃癌患者の胃液を採取して檢査しますれば、多くは遊離鹽酸缺如し、乳酸の存在を認むることが出來ます。胃癌の診斷には胃液の檢査は最も大切でありますけれど、これは專門的のことでありますから爰には省略することゝ致します。

本病患者は漸次貧血を呈し、惡液質に陷るものであります。それは胃出血、又は消化障碍等により來るものでありますけれど、又一方に於ては癌腫より發生する毒素の吸收も亦其原因をなすものでありまして、此際患者は一種の汚穢蘖黃色を呈し、一見癌腫患者なることを識別することが出來ます。

本病患者は時々發熱し、又は浮腫を生ずることがあります。便通は初期に於ては多くは祕結しますけれど、時としては祕結と下痢とが交代することがあります。末期に於ては屢々下痢を來すものであります。本病の際には又屢々鎖骨上窩の淋巴腺の腫脹

を來し、其他鼠蹊腺や腹膜等に轉移して腫瘍を生ずることがあります。

本病の症狀は又癌腫の發生部位により相異するものでありまして、胃の噴門部に癌を生じた場合には嚥下困難を來し、幽門の癌腫でありますれば主として疼痛、胃部の膨滿、嘔吐等を來すものであります。胃自體の癌では、胃部に嚙むが如き疼痛を發しますけれど、一般に其症狀は前二者よりも輕微であります。

胃癌の豫後は極めて不良でありまして、死に至るまでの經過は癌の種類及び發生部位により相異し、極めて迅速にして數月にして死亡するものもあり、又頗る慢性でよく數年の生命を保つものもありますけれど、何れも死を免るゝことは出來ません。早期に診斷を確定し、外科的に患部を充分に切除すれば根治することもあると云ふことでありますけれど、多くの場合に於きましては、一旦手術致しましても數年の間に再發し、其際は極めて迅速に增惡して遂に死に終るものであります。

本病の診斷は、既に病勢進行せる場合に於きましては決して困難のものではありませんけれど、其初期に於ては普通慢性胃加答兒等と區別すべき特徵とてもなく、それが果して胃癌であるか否かを決定することは頗る困難でありまして、專門の醫師と雖も其診斷は容易なものではありません。然るに本病は其初期に於て外科的手術を行ひ、患部を充分に切除すれば、患者を危急より救助することが出來ますけれど、既に其時期を失ひ、進行せる場合に於きましては、最早之に施すべき策なく、唯徒に死を待つより外はありません。夫故本病は其初期に於て診斷を確定することは極めて大切なことであります。然るに多くの場合に於きましては、本病の初期には患者自ら其大患なるを悟らず、醫師も亦これを看破することが出來ないで居るうちに、本病の治療上最も貴重の時機を失ひまして、既に著明なる胃癌の症狀を現はすに至りまして、患者も醫者も大騷ぎを致し

ます時には、最早治療の方法がないと云ふ様なことになるものであります。夫故高齢の患者にして、從來健康であつたものが慢性胃加答兒の症状を呈し、適當なる處置をしましても容易に治癒せず、患者の榮養が漸次衰ふる様な場合には、先づ胃癌の疑を起し、信頼すべき専門醫の嚴密なる診斷を受けらるゝことが大切であります。

胃癌の内科的療法は、悉く對症的のものでありまして、本病を根治せしむるに足るべきものはありません。之に反して適當の時期に外科的手術を行ひますれば、獨り患者の苦痛を除くのみでなく、時としては之を根治せしむる希望もないではありません。

胃の噴門の癌腫でありますれば、嚥下困難がありますから、食物は粥狀のもの、又は流動食を與へ、食物の通過困難なるときは、消息子擴張法を行ひます。胃自家及び幽門癌腫にありましては、胃液中の鹽酸缺乏し、乳酸が增加して居りますから、肉類の消化惡く、植物性食物、殊に含水炭素はよく消化せらるゝものであります。夫故、粥、白「パン」等が適當なる食物であります。然し胃癌の食餌療法は大に注意を要するものでありまして、それは凡て醫師の指圖によつて行はるゝ方が安全でありますから、爰に委しくは申上げぬことに致します。

胃癌の手術療法としては、可成早期に開腹術を行ひ、患部を切除することであります。斯る場合に於ては、今日までの經驗によりますれば手術後三年以上再發せざるものが二〇乃至三〇％あると云ふことであります。然し多少時期遲れたりと思はるゝものは、斯る手術を行ひましても單に多少死期を延長するに過ぎません。既に適當なる手術の時期を失ひ、癌腫の全摘出が出來ぬ際は、姑息的に胃と腸とを吻合しまして、患部をして食物を通過せしめぬ様に致します。そうすれば患者の苦惱を減じ、且死期を遲くすることが出來ます。

藥物療法としては、癌腫そのものに向て確實なる效果を有するものはありません。往時は「コンジェラ

ンゴーにを本病の特效藥として用ゐましたけれど、それは單に食慾を增進する作用を有するのみでありまして、其他凡て藥劑は食慾亢進、醱酵制限、疼痛寬和等の各症狀的に用ゐらるゝに過ぎません。

胃癌の手術に就ては、時として悲劇を傳ふることがあります。今其一例を擧げますれば、昨年の五月雨の降り續く頃でありました、或る地方の豪農で、當時頸部癌腫に罹つて、其治療の爲めに上京して居らるゝ人の奥さんが、偶々主人の病氣見舞に上京したところが、少々胃に工合が惡くて或内科醫の診斷を受けられました、然るに其醫師の診斷によれば、これは胃癌であるから、早く手術せねばならぬと云ふことでありました、私は其一家族の人と知り合つて居りますから、其際どうすればよいかと云ふ様な相談を受けまして、私も一應診察しましたところが、それは左様な胃癌に相違ありませんけれど、其人の體質並に疾病の程度が、外科的大手術に堪へ得られまいと考へましたから、手術することは見合せた方がよからうと注意して置きました。併しそれは單に病狀の爲めのみではなく、他にも重大なる意味があつたのであります。其當時、其人の主人は不治の重患に罹つて居らるゝのでありますけれど、其年の九月頃迄には、年來の希望である極めて榮譽ある地位が得らるゝのでありますから、同じく長からぬ命でありましても、出來得べくんば其時迄は死にたくない、又死なしたくないことは、當人及び一家族、親類、知人等の希望でありました、然るに其際奥さんが大手術を行ひまして、萬々一にも不幸の轉歸を取る様なことがあれば、其爲に主人は非常に落膽して其命を縮め、希望の[illegible]にして待つて居らるゝ榮譽も得られない内に、冥途へ旅立たるゝ様なことがあつては、實に氣の毒だからと思ふたからであります

其後數日間何等のたよりもありませんから、定めて無事のことゝ思ふて居りましたに、一夜其人の宅から急な使でありまして、奥様が某病院に入院せられ

て居り、目下危篤であるから直ちに來て貰ひたいとの話でありました。先づ取るものも取りあへず大急ぎで病院に駈附けましたれば、病人は、自分も是非今度手術すれば治癒るものなれば手術したいと云ふ希望でもあつたし、又當時入院せる病院の外科主任の診察を受けた際に、此病氣は手術すれば必ず治癒る、決して危險はないと受け合はれたから、同僚の人とて正直に此言を信じて直に入院し、昨日手術を受けたとのことでありました。然るに私の參りました際には患者は殆んど瀕死の状態であつて、何とも術の施し樣もないほどでありまして、それから一日置て次の日に、遂に病める主人に一言の別辭を述ぶることも出來ず、其病院の一室に於て長き眠りにつかれました。一方に於て主人は、自分の病氣が重態であるから、妻の危篤を聞きながら之を訪ることも出來ず、徒に苦悶して居られましたが、最愛の妻の死を聞くと共に、主人も非常に落膽せられまして、其後は病勢日に增進しまして、年來の希望であつた榮譽は目前にぶら下つて居ながら、之を取る事も出來ないで、遂にこの不歸の客となり、初めに申した妻の跡を追ふて逝かれました。斯樣に初より斯樣な結末を見ることを知つたならば、恐れることは出來ないのでありますけれども、其當時の手術をしなければ、暫くは兩人共生きて居たことでありませんか、縱令主人も腎臟病であつても九月までは生き延びられて、年來の希望なる榮を得られて後安らかなる眠りに就くことが出來たでしように意外の出來事の爲に、これを待たずして夫婦共同時に亡られたことは、當人の遺憾は申迄もなく、親戚知人一同、嘸遺憾なことであつたであらうと思はれます。其故、手術は實に結構なことでありますけれど、亦同時に種々なる慘劇が生ずることがありますから、これはほんの一例に過ぎませんけれど、本稿に附け加へて申上ぐるのも满更無益のことでもないかと思ひます。

「アルコール」の話（承前）

醫學士　福田得志

「アルコール」は吾輩の神經中樞の働きを痲痺させるもので、決して興奮させる作用を有するものではないことは、前號に於て、多くの實例を擧げて説明した通りである。然らば「アルコール」にはかくの如き害がある許りであつて、少しも益する所はないであらうか。寒い日に酒を飲んで暖まり、眠れぬ宵に酒で眠り、傳染病者に接近する場合に強い燒酎を飲んで病氣を豫防するなど言ふことは世間に有り觸れたことであるが、これは實際役に立つものであらうか、或はこれも有害なものであらうか。

寒い季節になると「アルコール」性飲料を用ひて寒氣を防ぐ。これは世界の各國に行はれてをる習慣であつて、殊に寒國の者に多く、ロシヤ人が「ウオッカ」に浸り、北海道邊りの人が多く酒を嗜むのも、孰れ其例に漏れない。わが國では寒夜の熱燗は上戸の此上もなく好愛する所であつて、これを「體の内より衣を著る」と稱して居る位に、「アルコール」には體中を暖かにするの作用がある。「アルコール」で身體が暖まるのは「アルコール」が體內で酸化燃燒して熱を發するにもよるけれど、主なる理由は尚ほ此外にあるのである。すべて我々が暖かいとか或は寒いとか感ずるのは、我々の皮膚に配布されて居る神經の末梢器の感覺によつて起るものであつて、皮膚が暖かになれば我々は暖いと感じ、皮膚が寒くなれば我々は寒いと感ずるのである。皮膚の溫度は、外界の寒暖によりて司配さるゝ外、皮膚を流れて居る血液の多少によりて影響さるゝ事が少なくない。これ血液は體の內部に生じたる熱を表面に運搬する主なる役目を持つて居るものであるから、血液が皮膚に多く流るれば流るゝ程、皮膚の溫度は高くなり、人は暖かく感ずるのである。然るに、「アルコール」は血管に來て居る神經の中樞に或る特別の作用を有して居る、

卽ち血管殊に皮膚に配布されて居る小さい動脈に一定の緊張を與へて之を通常の大さに收縮させて置く所の作用を持つて居る神經を麻痺させるのである。夫故に皮膚に來て居る血管は「アルコール」のために其の緊張を失ひて擴大し、血液は自由に其中を流れる。血液が自由に流れると、皮膚は赤らみ、溫度高くなり、人は暖く感ずる。然し、暖かく感ずるのと、身體が暖まるのとは全く別の事である。例へば空腹と疲勞とに迫られた旅人が寒氣骨に徹するを覺える頃、暖かい室で暖かい食事にありついたときには身體中が眞個に暖まるのであるが、この場合は「アルコール」を飮んで縱へ暖かく感じてもこれはたゞさう感ずる許りであつて、身體の熱量が眞個に增したものではない。否却つて身體の熱量は失はるゝことが多く、やがては却つて體溫の降下を來すものである。寒い所では我々の皮膚の血管は反射的に收縮して、血行を少くし　皮膚の溫度を低くして、體熱の發散を成るべく少くしやうとする。これが健康なる身體の外界の寒氣に對する自家防衞の道である。然るに、若しこの反射機能を掌つて居る神經が「アルコール」のために麻痺して、皮膚の血管は縮小するよりも却つて擴大し、血液の循環が盛んになるときは、皮膚の溫度は高まり、感覺は暖かでも、體熱の發散は非常に著明となるために、遂に體溫は降下するやうになる。この故に嚴寒の候に凍死するものは遙かに飮酒者に多い。彼等は暖かく感じて居る、然しそれと同時に多量の熱を失ひて身體の內部は冷却しつゝあるのである。卽ち暖かく感ずるのと、眞實暖まるのとを混同してはならぬ。

數年前のことであるが、二十六名の屈强なる男子より成る一隊が北亞米利加の平原を橫切つて居た。時しも冬の最中であつたが、一夜彼等は暖まるに爐の火もない空屋に嚴寒と戰はねばならなかつた。食料と「ウヰスキー」とは充分にあつたので、彼等は食ひ且つ飮んだ。其中の唯一人のみは、かゝる酷寒の夜に「ウヰスキー」を飮んだら必ず凍死を免れまいと

信じ、且つこれを其友人に話して「ウヰスキー」を止めさせやうとした。二人の友達は其の話に從つて、其夜「ウヰスキー」を飲まずに牀に就いた。この二人は夜は寒かつたが眠れぬ程ではなかつた。他の三人は少し許り飲んで寢たが、前の二人よりも酷く寒氣を覺えた。七名は稍多量に飲んだが翌朝になつて手足の指が凍えて壞疽に陷つて居た。六名は可成り大量に飲んだが凍えて遂に恢復するに至らなかつた。四名は酩酊するまでに飲んだが皆三、四週間以内に次から次にと死んで終つた。最後の三名は全く泥醉して牀に入つたが翌朝見たときには凍死して居た。この二十六名は皆健康で屈强なもの許りで、其夜皆同じ枚數の毛布を着て同じ場合に臥たものであるから、斯の如き死生の別を生じたのは一に「ウヰスキー」を飲用せしや否やによるものと考へられる。

嚴寒に際して「アルコール」を用ふることの危險なるは右の實例で明かである。日本内地の冬は[illegible]られぬやうな寒氣に遇ふことがないので、飲酒者の凍死といふことも稀であるが、此地にては何人も經驗する所で、酒の醉の醒むる頃ゾク〳〵と寒氣を感ずるのは正しくそれである。右に述ふる所で、酒で暖まるのは、たゞさう感ぜらるゝばかりで、實際は熱を受ける所か、却つて失ふものであることが判る。故に酒によつて暖を取らうとするのは非常な誤りである。我が國の氣候では凍死に陷ることは少いにしても、「エチルギー」の損失は大したものであらう。

寒くて寢就かれない晩などに、よく寢酒を用ひるものがある。これは體が暖まるのを感ずる快感と、樣々の不快な心配事などか麻痺した神經から消え去る快感とのために寢就きがよくなるものである。すべて人間の腹の中には、[illegible]といふ獨立した時[illegible]じがあるものではなく、[illegible]快感がなくなつたとき、[illegible]が取れたときに[illegible]は心地よく[illegible]す[illegible]あである。[illegible]のために[illegible]なる。[illegible]全く不[illegible]が[illegible]するのである。[illegible]らばア

ルコール」は特別の害を為すことがない計りでなく、却つて醫藥として用ひられる。これは「アルコール」に依つて起る所の爽快の感が、反射的にすべての身體の官能、即ち食慾を増進し、消化を佳良にし、物質の新陳代謝、血液の循環を旺盛にし、睡眠を催さしむるに依るもので、適當に用ふるときは其効能は著しきものがある。然しながら其作用は常に不快感或は抑制神經の麻痺作用によるもので、眞個の興奮でないことを忘れてはならぬ。殊に或種の神經病者例へば、癲癇、神經衰弱者等は「アルコール」に對して殊に鋭敏で少量の飲用のために甚しく病状を惡くすることがある故注意を要するものである。

「アルコール」を飲用すると、其「アルコール」は體中を循環して、外部から侵入して來る黴菌を殺すが故に、傳染病を豫防するの效能があるものとして、傳染病の流行時に殊更らに、強い酒を飲用する人があるが、然し、この考へは誤りであつて、種々の研究の結果この考を證據立てるものは一つもなく、却つて「アルコール」は身體の抵抗力を弱くして、傳染病に罹り易くならしめ、一旦罹つたものは容易に治り難いと云ふことを教へたに過ぎない。これは前に述べたボッゲ氏の犬の實驗でも判ることである。「アルコール」を外用に用ひて強い殺菌力のあることは、皆様御承知の通りで、傳染病の豫防に酒を飲用するのも、この作用を素人考へから割出したものであらうが、人間の身體はさう簡單に理屈通りに行くものではない。

飲用された「アルコール」は、一部分は變化せずに肺臟から呼出されるが大部分は體内で酸化し燃燒して、熱に變化する。熱に變化したものは元より、體力の源泉となつて、他の榮養物例へば蛋白質、含水炭素物等の消耗を尠くするものであつて、其點から見れば「アルコール」は一種の榮養物と見ることが出來る。然し、常用の榮養物は常に體内で燃燒するの性質を有するばかりでは充分ではない、一定の時間體内に蓄積されて必要に應じて少し宛燃燒して、堪

えず「エチルギー」を出す性質のものでなくてはならぬ。「アルコール」は燃燒して強い熱量を出すものであるけれども、餘りに速かに燃燒して少しも持ちがない。のみならず其の特殊作用として皮膚血管を擴げて熱の損失を大きくするために、實際身體活動の役に立つものは甚だ少ない。これを蒸氣汽鑵に例ふれば、普通の食物は石炭であつて、「アルコール」は鉋屑である。鉋屑は燃え易いが、一時に盛んに燃え上る許りで、永く汽車を動かす力はない。之に反して石炭は少し宛いつまでも燃燒して、永く續けることが出來る。故に鉋屑の「アルコール」は到底榮養物として人間の體に適當したものではない。これは「アルコール」を榮養力の方面からのみ見たことであるが、これに「アルコール」の毒性を併せて考ふれば「アルコール」は榮養物として全く價値のないものと云はねばならぬ。

　これを要するに、「アルコール」の作用は全く痲痹作用であつて、これを永く用ひて居ると體力の消耗、精神の鈍痲を來し、子孫の繁榮を害ふものである。寒さ凌ぎに飲酒するのは甚だ危險である、又傳染病の豫防に酒を飲むことも理屈に合はないことである。酒は滋養價に富み、榮養品として最も貴重な米から醸造されるものであるけれども其の榮養品としての價値は殆どない。藥としては、醫師がこれを適度に用ふれば、有效なものであるけれども、素人考へにて、これを強壯劑として、催眠藥として、或は食慾增進藥として飲用することは時に危險を醸す恐れがある。

　私は「アルコール」が人間の身體に如何な作用を持つて居るかと云ふことを考へて見たのであるが、單に此方面から見ても、「アルコール」は有害であつて、益する點は殆ど無い。これに、道德的又は社會的方面よりの觀察を併せ考ふれば、禁酒の必要なることは明白である。

育兒

兒童皮膚の養生

賀川哲夫

小供を育てたことのある人は小供が一度や二度は必ず皮膚の病氣に罹つた事を經驗しないことは無いと思ふ、輕いのは汗疹から重いものとなると何んとも名の付かぬ所謂「くさ」、「ふきでもの」、「おでき」もつと廣く云へば「たいどく」(胎毒?)に就ての經驗は必ずあるものである、これほど小供と云ふものは皮膚病に罹り易いものである、斯の如きは果して何に由來するものであるかと云ふに兒童の皮膚は特異な素質を持つて居て身體の內外から來る種々の刺戟の爲に皮膚が容易に侵され又遺傳や體質の爲に皮膚の罹病性が高まつて居るからである。故に兒童皮膚病の原因は第一外來刺戟、第二內生刺戟、第三素質に大別することが出來る、而して第一の外來刺戟の內には細菌の傳染や器械的刺戟や化學的刺戟や天候の影響などを含んで居るから普通の皮膚病原因の大部分を占むるものである、次に多いのは第三の素質で俗に所謂「たいどく」と云ふものがこれであると思はれる。併し私が日々接して居る患兒の親の言に據ると當今「たいどく」と云ふ辭は甚だ廣く用ひられて細菌性の皮膚病で外から傳染したものだと云ふことを承知して居ても矢張り「たいどく」說を固守して居るのを見受ける。第二の內生刺戟は前二者に比較すれば遙に稀れであるが育兒上には閑却すべからざる重大な問題である。

前に述べた素質の外に皮膚其ものゝ素質と云ふことを考へねばならぬ、生後數ヶ年間は兒童の皮膚は柔軟、菲薄、纎弱で抵抗力少く皮膚の發育するためには表皮剝脫機轉と云つて恰も蠶が被膜を脫する

と同じやうに皮膚の表層が何時とはなしに剝離して下から新しい表皮が出來て來る此新生の表皮は一層軟弱であるから病氣を發し易い又兒童の皮膚は血管に富んで居る故に血清の滲出に因する皮膚病を發し易く又皮脂腺の發育が比較的佳良であるから皮脂が鬱滯して種々の皮膚病の原因となることなどは特に親から遺傳せられた素質以外に兒童としては孰れも皆持つて居る所の素質である、此素質の上に前に述べた三種の原因が影響して種々の皮膚病を起すのである、次に三種の原因に就て少しく述べて見やう。

兒童皮膚病原因の第一位を占むる外來刺戟の內であらゆる兒童に備つて居るものは唾液(涎)、汗汁、尿、屎等の如き分泌物、排泄物である、兒童の皮膚病が顏面、頸部、股間、肛門部等に最も多く起ると云ふ事から考へても其原因が何であるかを想像する事が六ケ敷くない、顏面は涎、汗、淚等の刺戟を受ける處、頸部も亦涎汗等から刺戟される處、股間、肛門部などは謂はずもがな間斷なく刺戟を受けて居る處である、而して兒童の身體が健全であれば涎、汗、尿、屎等は異常の化學的成分を含んでは居ないから、假令少し許りこれが皮膚を汚染したとても皮膚に著しい刺戟を與ふるものではなく唯皮膚を濕潤せしめ表皮を軟化せしめ、皮膚病を發し易くする位のものであるけれども、一朝兒童の健康が害せられると身體內に生じたた異常の成分や又は藥として內服させた化學的成分が分泌物や排泄物の內に現はれて來るから皮膚は是等の異常成分のために高度の刺戟を受けて、濕潤のために罹病性が增して居るのに乘じて容易に皮膚病を喚起するのである、故に此場合の養生法としては、第一に清潔を旨とし、分泌や排泄物で汚染された皮膚は時を移さず柔軟な布を用いて清拭し適度に入浴を勵行して日々拭除されずに殘つて居る不潔物を洗ひ落すことに注意せねばならぬ、入浴の時には其溫度に注意し先づ兒童の體溫と略ゝ同じ位の湯に入れて兒童の皮膚を此溫度に慣れさせて置いて少し宛湯を加へて漸次溫度を高めねば

ならぬ、入浴時に使用する手拭、石鹸などは最も注意を要するもので大人の使用するゴシ〳〵の「タオール」や香料たつぷりの化粧用石鹸などを矢鱈に使ふことは皮膚に器械的刺戟と化學的刺戟とを與へることに成るから皮膚は當然病的狀態に陷らねばならぬのである、然らばどんな品を使つたら良いかと云へば、手拭ならば極めて質の柔軟なのを選む、最も善いのは柔軟海綿である、石鹸の內で使用に適するものは遊離「アルカリ」を含まないものであるが、これば一寸六ケ敷い問題で遊離「アルカリ」の存否を甄別するには一定の檢査を行はねばならぬから、性質の知れない珍らしい舶來品などを使はないで、花王石鹸、「アイヴォリット」、「ミツワ」などが良いと思ふ、若し手に這入れば藥用石鹸(「マルセイユ」石鹸のこと)、加里石鹸(綠石鹸とも云ふ)を用ふれば最も安全である、藥用石鹸の內にも種々あるから「マルセイユ」Marseille と書いてある純白無臭の硬い石鹸でなくてはならぬ、入浴後は必ず發汗するものであるから皮膚の皺襞のある處例へば頸、手腕、腋窩、臍、股間、肛門部等に溜つて居る汗を拭い取つて其部に亞鉛華澱粉(製法後出)「あせしらず」などを撒布して置くのが宜い。

次に注意すべきは器械的刺戟、化學的刺戟である、是等の原因として最も兒童と親密の交渉を持つて居るものは衣服である、其質粗なれば皮膚に器械的刺戟を與へ、色物であれば其色素は化學的刺戟を與へる、就中恐るべきものは衣服の色である、織物に使用する色素には植物性色素と鑛物性色素との二種類あつて共に複雜な化學的作用を利用して染色するのであるから皮膚刺戟の原因と成り得る要素は甚だ多數に含まれて居る、先づ色素其のものが刺戟性のものであることがある、染色の時に使用せられた媒染劑が原因となることもある、又は汗や尿などに會つて一種の化學的作用を起し刺戟物を生ずることがある、今日の染色法は著しく進步して多く鑛物性色

素を用ゐて居て、植物性色素としては藍を第一として其他二三のものに過ぎない、此鑛物性色素の内には砒素のやうな恐るべき毒物から製出したものがある、其他枚擧すれば限りのないことであるが、要するに兒童の軟弱な皮膚に取つては決して安心の出來ないものが尠くないから色物の衣服を肌に著けることは嚴禁すべきである必ず肌著として無地の白木綿か何かを用ふるやうにせねばならぬ、若し右の注意の内の一つが怠られて兒童身體の一部に皮膚病が起つた時は兒童は瘙痒の爲に自分の手を以て病氣の在る處を搔くのである。此搔抓と云ふ事に因て更に器械的原因、細菌的原因等が來り加つて病氣は益々增惡蔓延するか又は病氣の性質に變化を來たして來るのである、人間の身體の內で手程不潔物に接觸する處は他に無い故に手には常に種々の細菌が附著して居る殊に自衞心のない兒童の手は世界中で最も不潔なものであると云つて宜しからん、されば若し此手で濕潤した皮膚病竈を搔抓したら其結果はどうであらうか、何人も容易にこれを想像することが出來るだらう、俗間に「こびひ」と名づけて居る一種の皮膚病は卽ち不潔な手の媒介で細菌を傳染させた爲に起る病氣である、假令、手が清潔であるにしても搔くと云ふ動作は有力な器械的刺戟であるから皮膚病はこれに因つて益々增惡して來るのが當然である、故に若し不幸にして皮膚病が起つた時は專門家の診察を乞ふ前に先づ兒童の手を監視して決して病竈を搔かぬやうにせねばならぬ、併し皮膚病は多くは痒いものである、それを搔くなと云つても忍耐力無き兒童には到底望むことの出來ない注文である、然らば劇しい瘙痒に對してはどうしてやれば良いかと云ふに私共が兒童の皮膚病を扱ふ時に行ふ方法は、皮膚病の出來て居る處を消毒した「ガーゼ」で被つて其上から手掌を以て輕く敲いて遣るのである、これは常識ある看護者や母などには容易に出來ることである、此處置は止痒の效が著明であるが、間斷なく敲いて居ることが不可能であると云ふ缺點がある、最

後に天候の影響で起る皮膚病であるがこれは冬では所謂「しもやけ」、「ゆきやけ」(凍創)、夏なれば「ひやけ」(日焦)である。此二者は唯天候の影響ばかりで出來るものではなく體質、素質の影響が重大な關係を持つて居る、善く肥滿して居て一見丈夫相な兒童が冬になれば「しもやけ」を生じ、痩せて居る兒童には出來ないと云ふことは日常人々の實驗することである、是れ全く體質の關係である。第二の原因たる内生刺戟とはどんなものであるかと云ふに、これを大別して消化器から發するものと神經系統の反射現象に因るものとの二種類とすることが出來る、消化器に由來するものは所謂自家中毒に因るもので、兒童が消化障碍に罹る時は消化管内に種々の病的產物が生じてこれが血液中に吸收せられると全身を循環して皮膚に達する、さうすると皮膚は是等の異常物質で榮養せられ、汗汁や皮脂なども此物質の影響を受けて變化する爰に於て皮膚は外表から變化した汗汁や皮脂の刺戟を受け内方からは異常成分を含んで居る血液で養はれるので恰も異物物質を塗り著けられるやうな形に成つて遂に病氣を起すのである、此時同時に器械的刺戟、細菌的刺戟等が加はる時は病原は益々猛性を逞ふするのである、斯の如き内生刺戟は消化障碍の場合のみではなく榮養法の如何食物の如何に因て起るものである、若し食物として與ふ物質が不適當である時はこれが血液中に吸收せられて内生刺戟を起す、兒童が慣れない食物例へば甲介類、果物等を喰べた後に皮膚に發疹を生ずることがあるのは全く此食物に因る内生刺戟である、又哺乳兒では榮養過度のため、貧血兒では過度の脂肪沈著を起してそれがために皮膚病を起すことがある。次に内生刺戟と神經反射作用と云ふのは、齒牙發生期にこれが原因となつて皮膚病を惹起すやうなのを云ふのであるが、この外にも善く調べて見れば神經反射作用を起す場合は澤山あるだらうと思ふ。今日皮膚病の原因の明でないものが澤山あるがこれ等は今日まだ人に知られて居ない神經反射作用のために起

るものではないかとも思はれる。

最後に第三の素質、體質の異常であるが、前に述べた皮膚其ものゝ素質は別問題として此處では身體一般の素質に因る皮膚の變化のことを述べる、兒童の體質には種々あるけれども皮膚病と直接の關係があるのは滲出性體質と腺病質とである、此外先天黴毒兒は早晩皮膚に黴毒性發疹を生ずべき運命を持つて居るものであるから皮膚病の側から見て一種の素質ある者とすることが出來る、俗間に所謂「たいどく」は卽ち右の三種の場合を綜括したものである、滲出性體質の兒童は哺乳兒の時期に皮膚病を發し易く腺病性體質の者は二歲以上成年期までの間に皮膚病を起し易く、黴毒兒では黴毒の程度如何に從つて或は早期に或は晩年に皮膚病を發生するものである、これ等の兒童には皮膚の保護法を講ずることが肝腎であるが、其根本的問題は體質の改善である、俗間では兒童が肥滿してさへ居れば身體が丈夫なものと考へて居るが、實際は決してさうでなく、腺病性體質の内には遲鈍性のものと過敏性のものとがあつて、遲鈍性のものは筋肉が弛緩して脂肪も充分に發育して居て身體は圓々と肥滿して居る故に一見丈夫相に見えるのである、故に若し善く肥滿した兒童が度々皮膚病を發するやうな事があつたら小兒科專門家の診を乞ふて體質の如何を檢査して貰ひ若し正常の體質でなければ、これを改善する方法を講せねばならぬ、體質の改善と云ふことは容易な事ではない、食物さへ良い物を與へれば立派な體質を作ることが出來ると思つて、矢鱈に滋養物を與へて居ると前に述べた通り榮養過度のための皮膚病を招くやうな事に立至ることがあるから、必ず專門家の指示の許に榮養法や轉地などを行はねばならぬ、先天黴毒兒の處置に至つてはこれは、單純の體質改善のみでは不充分で必ず驅黴法を行はねばならぬ、故にこれは勿論專門家の手に託して了はねばならぬことである。

最後に注意を要することは種痘と麻疹とである、これ等は兒童期に必ず經過すべき病的狀態であつて

兩方共將來一定の年限內有效であるべき免疫性を構成する機轉であるから、此時兒童の身體、體質には著しい變化が起るものである、從つて今まで丈夫であつたものが弱く病身に成つたり、又は反對に病身であつた兒童が丈夫に成つたりすることがある、麻疹を經過した後や種痘を施した後に全身の皮膚病を起すことがあるのは既に俗間でも二三人の兒童を育てたことのある親たちは善く知つて居ることで私も屢々患兒の母から麻疹後にこの皮膚病が起つた、種痘をしたら此病氣が出たと云ふ訴を聽くことがあります、從つてこの種の皮膚病は性質が定まつて居て患兒の年齡も大體一致して居る。

この種の皮膚病を未發に防ぐには如何にすべきかは最も重大な問題で、而かも一は小兒科專門家の研究すべき範圍に屬し又一は吾々皮膚科專門家の攻究すべき問題である、麻疹は傳染病であるから時を選ばず起る故に日常體質と皮膚とに注意して何時麻疹に罹つても、それがために皮膚が抵抗減少の狀態に陷らないやうに氣を付けて居れば宜い、種痘はこれに反して人爲的のものであるからこれを行ふ時期に注意し、少しでも身體に故障のある時、皮膚に病變のある時には種痘を禁ずる事が肝腎である、これ等に注意して居ても皮膚病を發することがあるのは前にも述べた通り種痘と云ひ麻疹と云ひ兒童の身體に取つては重大な努力で、將來數年又は十數年間有力に繼續せらるべき免疫性を構成する機轉であるから、從て血液成分や身體諸臟器の成分に著しい變化が起り、これ等から來る成分が皮膚に作用するのであるから、身體は如何に丈夫でも、體質は如何に健全でも、皮膚其もの丶素質として、此際變化した血液に異常の反應を起さねば已まぬ場合がある、こんな場合には如何なる方法を講ずるとも皮膚病を豫防することは不可能と思はねばならぬ。

右に述べた所は兒童皮膚が何故に皮膚病に侵され易いかと云ふ理由の說明であるが次項には兒童に起る皮膚病二三に就て詳しく述べて見やう。

以上雜然と述べ來つた所を個條書きにして見ると。

一、兒童の皮膚は皮膚自身の素質として又其他種々の理由で皮膚病を發し易いものであるから相當の注意を要するものである、其注意を辨へるためには皮膚病の原因を詳にせねばならぬ。

二、兒童皮膚病の原因は第一外來刺戟、第二內生刺戟、第三身體素質の三種類に大別することが出來る、第一の外來刺戟の內には化學的刺戟、器械的刺戟、細菌傳染などの細目がある、これに對する注意として、刺戟を避け皮膚の清潔を旨とし、皮膚病を搔抓することを禁ずることが肝要である、第二の內生刺戟は消化障碍、榮養法の如何に因るものであるからこれに對しては小兒科專門家の指揮の下に適當な處置を取らねばならぬ、第三の素質は滲出性體質、腺病性體質との二種と別に先天黴毒とが最も注意を要するもので、これも小兒科專門家や皮膚科專門家の盡力に因て初めて改善治療を行ふことが出來るものである、最後に注意せねばならぬものは痲疹と種痘との影響である、俗間所謂「たいどく」と云ふのは恐らくこれ等の體質異常を綜括したものだらうと思はれる。



○藥劑師受驗女子

本年度藥劑師試驗は第一高等學校にて四月五、七兩日に渡りて施行されたるが受驗者は二千三十名にて內女子五十二名あり全體に於ては昨年に比し三百餘名の增加にて婦人受驗者の數も亦年々增加の傾きありと。

○看護婦合格者

警視廳にては四月上旬より看護婦試驗舉行中なりしが六百三十七名の受驗者に對し三百四人の合格者を

出せるが昨秋の六百九十名中四百四十五名の合格者に比し成績著しく不良なり尙志願者の年齢は年々若くなる由。

○災害防止展覽會

文部省の主催にて去る四日よりお茶の水敎育博物館に開會されたる災害防止展覽會はあらゆる天災事變疾病過失等の災難を防止する參考に資する目的にて計畫されたるものなるが陳列は天災及火災、交通機關に伴ふ災害、工場及鑛山に於ける災害、學校家庭軍隊等に關する災害の四項に分類しそれ〲數十百點の出點あり、因に同會に女學校より出品せるは左の如し。

實踐女學校（學校及家庭に於ける傷害、火災、盜難等の防止施設及び心得）

山脇高等女學校（火災原因種別圖及統計表）

跡見女學校（盜難豫防家屋模型、盜難被告に對する犯行手口調）

青山女學院（火災避難縄梯子、及其使用寫眞、衞生手洗器、安全哺乳器）

○米の消費額

農商務省調査大正七年中の日本内地に於ける米消費總額は六千百八十六萬二千二百八十一石にして之を人口總數五千六百八十五萬千三百人に割當つれば一人當りの消費額一ヶ年一石八升八合に當れり而して前年即ち大正六年中の日本内地米產額は三千四百五十六萬八千六百十七石にて其中より左記の輸移出をなし結局七百三十一萬四千二百六十四石の不足は外米の輸入乃至朝鮮米及臺灣米の移入を以て補充したり同年中の輸移出入詳細の數字は左の如し。

	輸移出	輸移入	差引輸移入
外國	二六四、五六四	四、六四七、一六八	四、三八二、六〇四
臺灣	七一、〇〇五	一、一二六、八五五	一、八〇八、〇〇六
朝鮮	三、二〇一	一、八七九、〇一一	一、一二三、六五四
計	一三八、七七〇	七、六五三、〇三四	七、三一四、二六四

會報

○五月例會

去三日午後一時より一橋通女子職業學校大講堂に於て婦人修養倶樂部と合同例會を開き三輪田元道氏の「迷信打破」といへる極めて有益なる講演あり終て餘興として細川風谷氏の講談及び有志の琵琶等あり出席者五百餘頗る盛會なりき、當日出席の本會役員左の如し。

濱尾作子　鳩山春子　原光子
田村きよ子　山本多穗子　宮本樂子

○玖須美溫泉

伊豆の山水、その歷史、就中溫泉につきては事新しく說くの要もないが、前年迄本會の事務員として鞅掌せられた藤村晴子刀自は、昨年來坐骨神經痛の爲めに苦まれ、伊豆の伊東に療養して稍々輕快を得たる趣なるが、これは固より溫泉の效大なるべきも、同地玖須美の素封家の息にて杉山義郎といへる人、不幸明を失ひ盲學校に「マッサージ」を修め、爾來專心技術の練磨に努め、營利を外にして懇篤に治療に從事せるより、近來令名を馳せ、その業大に行はるゝ由にて、藤村刀自も同氏の治療を受け、その人格と技術とに敬服し、若し本會々員諸姉の中同樣の症にて伊東に遊ばるゝ人もあらば、試みに右の杉山氏を訪はれむことを勸むと。

○入會者

○北原壽子紹介
赤坂區表町二ノ十三　通常　杉浦かつ子

○事務所申込み
芝區琴平町三　通常　古屋百合子
高知縣香美郡野市町　通常　田原磯路子

○宮本米子紹介
麻布區飯倉町三ノ二十六　通常　七澤康太郎

○轉居

外國より府下中澁谷南平臺五六〇へ　內田陽子
富山縣より府下日暮里渡邊町一〇八へ　上庄節夫
本鄕區より府下駒込傳中九八へ　山川はま子
府下より京都市岡崎和御所町二五へ　石田裕子
神田區より神田區裏神保町五へ　室賀歌子

以上

私立大日本婦人衛生會役員氏名

總裁 東伏見宮妃周子殿下
會長 侯爵夫人 鍋島榮子
副會長 男爵夫人 濱尾作子

（いろは順）

幹事 鳩山春子
同 岡田徳子
同 山本多穂子
同 松平芳子
評議員 入澤常子
同 濱田捨子
同 原みつ子
同 西絣子
同 緒方悦子
同 小川孝子
同 片山亀子
同 丹波貞子
同 田村きよ子
同 男爵夫人 南部限子
同 山口貞子
同 古市幸子
同 近藤憲子
同 岸澄子
同 三宅藤子
同 守屋千代子

同 長谷川仲子
同 高木鐐子
同 三浦敎子
同 羽田三緒子
同 服部繁子
同 仁禮壽賀子
同 土肥多越子
同 岡山とし子
同 男爵母堂 加藤鈴子
同 吉岡彌生子
同 高橋孝子
同 鵜原誠子
同 中濱芳子
同 子爵母堂 松井正子
同 小松いさ子
同 天野多喜子
同 菊池米子
同 宮本樂子

大正八年五月十七日印刷
大正八年五月二十日發行

東京市本鄉區駒込千駄木町五十八番地
編輯者兼發行者 莊司秋次郎

東京市本鄉區駒込林町百七十二番地
印刷者 櫻井新三郎

東京市本鄉區駒込林町百七十二番地
印刷所 合資會社 杏林舍

東京市本鄉區駒込千駄木町五十番地
發行所 私立大日本婦人衛生會事務所
（振替東京一〇六〇〇番）

賣捌所

東京市本鄉區龍岡町 吐鳳堂
同市銀座四丁目 東海堂
同市京橋區鎗屋町 眞明堂
同市本鄉區本富士町 明文館
同市同區春木町 南江堂支店
京都市寺町二條南入 若林茂一郎
東京日本橋區吳服町 北隆館
同市神田區表神保町 東京堂
同市本鄉區本富士町 盛春堂
名古屋市榮町六丁目 丸善書店

JUGOL

惡阻特效藥　ユゴール

文献贈呈

姙婦の疾患中惡阻に苦むもの多数なるにもかゝはらず從來之れが治療藥として殆んど認むべきもののなきは頗る遺憾也、然るにドクトル飯田左三先生十數年來之れが治療法に關し研究を重ねられつゝありしが先般理想的の新藥を發見し種々實驗の結果全く無害にして副作用なく然かも卓效を奏する新藥ユゴールを發見せられたり。

本品は本邦特產の Juglandaceae 中 Pterocaryae 屬植物より抽出せる特殊の物質にして殆と無味無臭油狀を呈しアルコホルには難溶、エーテルには易く溶解す。

適應症

本品は主として姙娠惡阻に使用するも惡阻以外にも鎭嘔劑として汎く應用せらる。

用法用量

注射用ユゴールは一回の皮下注射量一c.c.を普通とし一日一回持續連用するも何等の副作用を認めず。

膠球入ユゴールは一回二―四個一日三回を普通とし、膠球も注射用と同樣連續服用に適す。

包裝（注射用ユゴール一管一c.c十管入　金壹圓參拾五錢、內服用膠球入ユゴール一瓶
定價（百球入　金貳圓五拾錢

發賣元
東京　三共株式會社　室町
郵便振替貯金口座東京三二五番